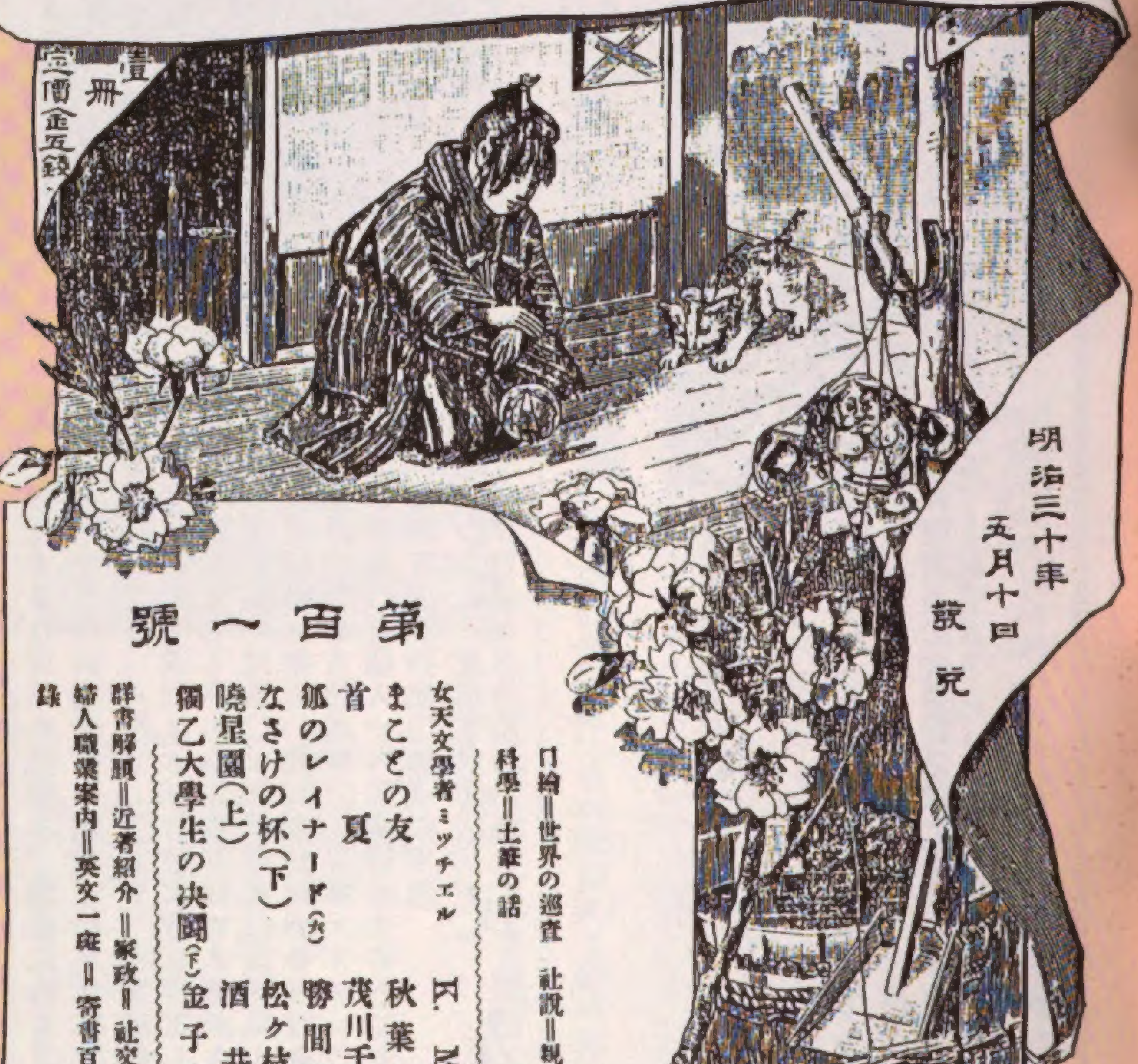
毎月十日廿五日發行

家庭雑誌

壹冊 定價金五錢

明治三十年五月十日發兌



第百一號

口絵＝世界の巡査　社説＝親族自慢
科學＝土筆の話
女天文學者ミッチエル　F. M生
まことの友　秋葉女史
首夏　茂川千傾子
狐のレイナード(六)　勝間禪夢
なさけの杯(下)　松ヶ枝女史
曉星園(上)　酒井生
獨乙大學生の決闘(下)　金子春夢
群書解題＝近著紹介＝家政＝社交一斑＝
婦人職業案内＝英文一斑＝寄書百珍＝雑録

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

((五月七日發賣))

『最暗黒之東京』著者乾坤一布衣の新著成る

社會百方面

定價金拾五錢　郵税一冊四錢

社會を考究するは目下の急務也、議論に由らず實際に就て、而かも今日の所謂社會問題多くは是れ學者先生の推理抽象の論に流るゝの弊なしとせず、此書眇然たる一冊子に過ぎずと雖も其記する所は皆實際社會にして他の議論抽象の書に比して自から面目を異にする所あるべし。

目次――貧童の堕落○支那風俗記○臺灣風土記○朝鮮風俗記○足尾銅山○晩商●納籐師●旅師●什麼物師●見世物師●古物商●賍品買●アラボシ○掠鳥●騙詐の内幕○居職人の内狀●資本主と手工者○塵窶雜俎●細民生活抄記○醜窟の半面

發兌元　東京市京橋區日吉町四番地　民友社

公爵近衛篤麿公演説
侯爵蜂須賀茂韶公演説
伯爵大隈重信公演説
内海忠勝君演説
島田三郎君演説
江原素六君演説
成瀬仁藏君演説

女子教育談

西洋綴美本全一册
正價金十二錢
郵税二錢

本書は目下世上の一問題となりたる女子大學校設立に就ての朝野名士の名論卓説を集めたる新書にして世の教育家及び女子の父兄女學生たるものゝ一讀せざる可からざる好書なり

發行所　東京市日本橋通一丁目　大阪市心斎橋筋博労町　(電話本局七八九)　青木嵩山堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○小兒○はよく肥へて笑ひ顏の愛らしき筈のものなり痩せたる小兒は興味尠きものなり之れには彼の有名なる肝油の精と次亞燐酸とを配合して飲み易く且つ味ひよく製造したる

スコット乳菓が最も適當なる食料にして忽ち肉を肥し發育を助くるなり●此の乳菓が滋養分に富むとは他に比類なきが故に虚弱なる人々は之れを用ゐて奇効を見べし

特に虚弱なる婦人は一度之れを服用せば忽ち健全なる身躰となること疑なし

○咳嗽及風邪○は病の初めなり、次に來るものは肺の衰弱にして身躰を痩せしむ、最後に彼の恐るべき肺病の萌芽を斷すなり彼の有名なる肝油の精と次亞燐酸の調合物なる

スコット乳菓は能く咳嗽及風邪を去り肺臓を強くして活力を與ふること實に驚くべし●●●此の乳菓の洪大なる滋養分が嬰兒、小兒及虚弱なる母親を益すること實に大にして、其味も至て滋味なれば喜で服用するなり

此の乳菓が精氣を増し滋養分多く最も効驗あるものなるは世界の大醫の擧て證明するところなり

○スコット乳菓の説明書御入用なれば横濱八十九番日本支那貿易商會へ此の雜誌にて御承知の旨御申越あれば無代價にて呈す

左の大取次所の外各藥舗にて賣捌き居れば御購求ありたし

横濱境町	友田嘉兵衛
仝境町	鳥居德兵衛
仝太田町	大川佐兵衛
東京本町四丁目	島田久兵衛
仝室町	資生堂
仝本町三丁目	島田忠兵衛
大阪道修町二丁目	小西儀助
仝道修町二丁目	武田長兵衛
仝道修町三丁目	田邊五兵衛
仝道修町二丁目	田畑利兵衛
仝道修町二丁目	福田清右衛門
仝道修町二丁目	鹽野儀三郎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

十二文豪新刊!!

德富健次郎著

十二文豪　第十卷

トルストイ

（肖像入）

定價廿五錢　郵稅四錢

トルストイは實に露國の一異物、のみならず世界の奇觀である。其國柄からしても、文豪としての位置からしても、所謂トルストイ宗の開山たるからしても、今日に比類なき興味を有する人物である。著者の不學無術あへて其面目を詳悉したとは云はぬ。併し微弱な力に出來る丈は盡した積である。讀むも讀まぬも諸君の御隨意とは云ひながら、若も今迄一卷として世に出でたことのないトルストイの一生を兎に角一卷にまとめて、誠實に描かんことを試みた此「トルストイ」の一讀を諸彦に推薦しなければ、著者は諸彦に對して不忠實なるもの、徒謙徒遜なる者であらふ。故に是非〱諸君の一讀を請ふのである。

●日々評　夕暮敢果なき落花の影に此編を繙けば何となき寂しさを感ずる心地與繁熱誠の筆に因てヤスナヤポリヤナの老翁の生活著作理想は卷首の肖像と共に現に睹るを得べし文は言文一致

發行所　東京市京橋區日吉町　民友社

世界叢書第三册

マゼラン

福島民報評　今を距る四百年前の其昔、葡萄牙に一奇傑を生ず、其名をマゼランといふ、其燃ゆるが如き功名心は彼れを驅て世界の大探險家たらしめたり、彼れは其壯圖を時の葡王イマヌエルに説きたるも遂に容れられず、去て西班牙王チャールスに説きて漸く用ゐられ、乃ち五隻の遠征艦隊に八十門の巨砲を載せ、二百五十の壯勇を率ゐて征途に上り、西暦千五百十九年九月二十日の曉天、滿帆に順風を孕ませてセント、ルカの港を出發し、渺茫として際涯を知らざる太平洋上に浮びぬ、其目的とする所は新大陸の東岸を南行し、モラッカの美島に達して世界一週の新航路を發見せんとするに在り、乃ち舵を西南の方向に取り探撿し、或は幾多の困難、危險、窮乏と戰ひつゝ、蠻烟瘴雨の間に南洋諸島を巡る時は獰猛なる食人蠻賊の襲撃を受け、或る時は激浪怒濤に玩弄せられて萬死の境を出入し、幾多辛酸の後、將さにその目的を果たさんとす、惜なるくもマタン島の蠻酋と戰ひ、不幸毒矢に當りて肝腦を沙塲に委し、遺恨を異域に止めて終りたりと雖ども、此剛膽にして不屈なる彼れが部下を載せたる艦隊は、直ちに提督を選びて其壯圖を繼承し、千難萬艱を冒して目出度マラッカ島に達し、即ち三年の長日月を費して茲に世界一週の先登を成し遂げぬ、其五隻の艦隊は途中或は破壞し、或は沈沒し、或は逃亡して殘る所は只一隻の小船となり、力山を抜き氣世を蓋ふ二百五十の勇士は、或は波濤に奪はれ、或は病に斃れ、或は毒矢に斃れ、殘る所は顏色憔悴形容枯槁せる十八人の半病人のみ、此一事以て其征途の如何に困難にして、其志の如何に不撓不屈なりしかを推すに足らん、本書は即ち其遠征者の一人が手づから錄したる紀行にして、一讀壯絕の快絶、懦夫も爲めに奮起するに足るものあり、我が此東海國男兒たるもの、苟も飛翼を渾圓球上に伸ばさんと欲するの志あらば、須らく此種の壯跡を尋ねて養勇の資とすべきなり、

定價廿錢
郵稅四錢

嵯峨の家主人

古反古

定價廿錢
郵稅四錢

此書題して古反古といふは、多くは著者の舊稿を輯めしに由る、然れども文は必ずしも古きもの丶みに非ず、篇中論文あり、記事文あり、叉叙事文あり、其論は天風颯々、其記事は雲濤漂渺、其叙事は明細緻密、而して別に小兒の世界あり、家庭讀本として趣味に富むこと、猶春花秋月の興多きが如し、苟も大日本の眞男兒たるものは、一本を購ふて徒然の讀本とすべきなり

發行所　東京日吉町　民友社

新刊發賣

木戶孝允

定價廿錢
郵稅四錢

本社出版の傳記評傳各書は世已に定評あり、其今日に至り重版續出、盛に世の需めに應じて止まざる、以て各書の價値を評定するに足りぬべし。今本書「木戶孝允」評傳の刊行成る、本書は孝允成長の初めに起り、艱難備に甞め、遂に維新の大業を翼成せるに至り、着筆精細、評論縱橫、附するに其諸建白書詩文等を以てす。皆經國慨世の大文字也。

（敎育時論評）木戶孝允は、維新三傑と稱せらるゝ者の一人、夙に心を皇室に傾け、力を邦猷に展ふ。其功德の偉大なる、優に後人を激勵するに足るべし。本書は、彼が少時の情態より筆を起し、前後三十餘年間、一身を政治に委ね、幾たびか死生の間に出入し、艱難の境に往來し、遂に德川幕府を倒し、明治政府を建設して、國家の面目を一新したる偉行芳跡を敍す、一讀人をして感奮興起せしむ。附錄に、孝允の上表、書翰、日記、文詩、墓誌等を揭ぐ。

發行所　東京市京橋區日吉町四番地　民友社

民友社編纂（第三版を重ぬ）

金貨本位はやわかり

貨幣法は愈々去月の官報を以て公布せられたり、而して其實施は僅々五ヶ月の後にあり、左れば吾人は此の短日月間に是非共之を了知せざるべからず、此書之を說明して平易明晰

定價拾錢 郵稅貳錢

世界經濟上の變動

價十二錢 郵稅二錢

本書を初て出版せしは去る明治二十六年四月に在り彼の印度幣制改革の擧ありて銀價大暴落を來たせるより二ヶ月前なりとす、世人は歐米諸國が金貨本位を採りし爲めに產業社會に不景氣を來たせりと想へり本書は生產分配機關の改良－即ち天然力の應用と運輸交通の大進步が生產超過を來たし隨て歐米諸國の物價を低落したるを論證せり世人は金貨の欠乏よりして金價騰貴したるものにして銀價は餘り低落せず隨つて金貨國の困難を來たせりと思へり本書は金貨の需要敢て增加せしにあらずして銀の供給に非常に多きを致し隨て銀價の低落を來たしたるこそ他の物價下落の理由と一般にして歐米の困難は干涉保護政策より來るとを論ぜり近頃本書を讀める人、本書を評して云はく本書の出版は五年前に在りと雖も宛も豫め今日の經濟問題を論ぜる感なくんばあらずと、然り本書は獨り今日金貨本位の結果に關する問題に參考多きのみならず今日の經濟問題全躰の參考として裨補なくんばあらず是を以て此際特に經濟上に注目せらるゝ讀者に本書を推薦す

發行所 東京市京橋區日吉町四番地 民友社

本社電話番號本局七十番

中野鷹子著◎永井鳳仙密畫

少年史譚 第貳篇

阿新丸

定價金六錢 郵稅金二錢

三鷹子の文は輕快にして讀むにやすく。恰も春風梢をわたつて百花燎亂たるの感あり。殊に此篇の如きは子が少年讀者の爲めに意を用ゐて。當時に於ける士氣を傳へ。以て今日に於ける年少者を鼓舞せんとするの用意周到誠に得難き好讀本といふべし。

雨谷一菜庵編◎永井鳳仙密畫

少年史譚 第壹篇

阿部仲麿

定價金六錢 郵稅金二錢

發行所 東京市京橋區日吉町四番地 民友社

家庭雜誌

○毎月二回十日廿五日發兌

定價
一冊金五錢 郵稅金五厘
半年（十二冊）前金五十錢 地方稅金五十六錢
一年（廿四冊）同金一圓 方共金一圓十二錢

○廣告料一行（廿四字詰一回ニ付）金八錢

○本誌御注文ハ前金爲替向所ハ芝口郵便支局

發行兼印刷人 吉崎國吉　編輯人 金子佐平

發行所 東京市京橋區日吉町四番地 家庭雜誌社

明治三十五年十月十日發行

家庭雜誌第百壹號

目錄

口繪
世界各國の巡査……

社説
親族自慢……一

科學
土筆……二

史談
女天文學者マリヤ、ミツチエル……K、M生……七

伊勢平藏平貞丈の女訓歌

文藝
まことの友……秋葉女史……一一
首夏……茂川千種子……一三

談叢
狐のレイナード(六)……靜岡禪夢……一四

小説
なさけの杯(下)……松ケ枝女史……一九

富士山の歌

群書解題
さま〳〵の家集……二三

近著紹介
女子教育談……二五

家政
庖厨雜俎(其五)……恕哉……二五
(14)石決明の粕漬……二五
(15)香魚の麹漬……二六
(16)牛乳レモナード……二六
(17)菜類の鹽漬……二六
麥稈眞田の製作……二六
姿見鏡と金椽……二七

婦人職業案内
造花の内職(花簪)……二八

英文一斑……二八

寄書百珍……三二

社交一斑
流行の栞……流行子……三六
夏向の洋傘……三六
由加多織……三六

雜錄
那須野育兒院曉星園……酒井生……三六
獨乙大學生の決闘(下)……金子春夢譯……四四
世界各國の巡査……四七
東京府下女學校一斑(二)……四八
四谷愛住女學校……四八

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭雜誌第百壹號（明治三十年五月十日發兌）

社說

親族自慢

幼時より教訓を受けたる父兄は、何時までも世間に抜でたる人なる如くに感じ、我が子女は、他の子女よりも善き者の如くに感ずるは、人情の免れ難き所にして、また此の感情あるが爲めに、父兄を敬慕し、子女を慈愛するの倫常も立ち行くとなれど、世間には餘りに身内贔負、親類自慢に過ぎて、醜しきもの往々これあり。是れ少しく愼まざるべからざる事なり。

身内贔負、親類自慢は、男女共に免れ難き所なれども、殊に女子に於て其弊の多きを見る。蓋し從來の女子は、教育の程度低かりしが故に、學問少なく、見識低く、思想陋にして、虛飾多かりしなり。加ふるに交際狹くして、其往來するは、親類緣者と近隣に止まりしとなれば、其親類自慢も亦餘儀なき次第と謂ふべし。

甲の女曰く、妾が弟は二十歳にして伯林に留學を命ぜられ、彼地の大學にては常に第一席を占め居りしとの事に候。乙の女曰く、妾が兄は二十五歳にして奏任官と爲り、三十歳にして勅任官と相成申候。丙の女も亦曰く、妾が從兄は東京に於て、優れたる三小說家の一人にて、中にも殊に多數の讀者を有し居り、貴顯紳士の間に愛讀せらるゝ事に候。婦人が虛榮心に富み、自己を誇り、親類を誇るは往々此類にして、婦人の集會なるものは、自慢の共進會、虛榮の共進會なると往々これ有り。彼等の最も憫むべき者は、妾が姉は柳橋第一等の藝者にて候、妾が妹は吉原第一等の遊女にて候、妾が從妹は娘義太夫中無双の好評判を博し居候、などゝ自慢する者すらありと云ふ。實に片腹痛き極にわら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ずや。
嗚呼世間多數の親族自慢者よ、親族以外の人に交ると親族に交ると同樣なれ。親族に交る如く同情を以て交るべし、親族を觀る如く親切なる眼を以て觀るべし。而して久しき歲月を經過しなば、他人も亦親族と同樣の善人君子なることを發見すべし、多くの長所好所を發見すべし、親族自慢を爲したる昔を耻づるに至るべし。

然りと雖も、吾人が親族自慢を戒むるの本意は、親族間の親厚なるが爲めに、無意識的に自慢する者よりも、在來親厚なるにあらずして、虛榮虛飾の爲めに汗漫りに人に向つて其親族を自慢する俗物の上に在り。讀者、吾人の精神を誤解するなくんば幸なり。

科學

土筆

時しも四月の下旬あるのどかなる日曜のこと一群の家族は花見の歸り人中の雜踏を避けて美しき野路に出で來りぬ其處此處に咲きにほへる菫、蒲公英、の花等つみ取りつゝ談笑することのむつまじさよ幼き花子は一本の土筆をぬき取りて母に向ひ

おッかさん「ツクシンボ」もやはり植物なんでしやうね

花子は尋常小學校を卒業して先日より高等小學に通ひけるが既に學校の先生より植物と云ふ語を敎へられしものと見へたり

兄の太郎ははや中學の一年を修て二年となれる十四歲の腕白盛りなるが博物の敎師より普通の植物の話を聞

きて土筆の事も少しは敎はり居るものと見へ母の答ふるをも待たでさも得意さうに

花ちやん「ツクシンボ」が植物にきまつてるよそしてあの先の筆の穗のやうなとこに種子があるのだよ

花子は種子と聞きて

兄さん何處に種子があるの敎へて頂戴な

と圖に示す如き、土筆を太郎に渡せば太郎は之を受取りてしきりに手の掌に打ちつけながらいぢくり居たりしが不審さうな顏色をなして

先達先生に敎わつた「ツクシンボ」とはちがつて居る樣だよ先生は「ツクシンボ」の頭を手の掌にたゝきつけると綠い粉が出るそれが種子だとをつしやたッけ……此「ツクシンボ」は種子がないのかしら……

母は此有樣を見て傍より其「ツクシンボ」は未だ若いから粉……種子が出ないのですよも少し熟すると觸らなくつてもぢき綠い種子が落ますよ。花子「おつかさん何處に種子があるの。母「それを御覽「ツクシンボ」の頭は六角の區劃があつて龜の甲のやうになつて居るでしやう其小さな六角の區劃を一つもぎ取つて御覽其裏に幾ツかの小さな囊のやうなものが付いて居ます此囊を子囊と云つて其中に綠い種子が入つて居るのです。

とて母は己れの頭より一本の針をぬき取りそれを以て土筆の頭をつッつきて六角の小さな區劃をもぎ取りしつかに掌に載せて兩人に示しながら

これ御覽此小さな六角の區劃は薄ッぺらい板のやうなもので其緣に綠い七ッ八ッの子囊がついて居ます子囊を針でつッつくとこれ此通り綠い粉が出ますこれが種子で顯微鏡でなくッちやはつきり見へない程小さいものですよそして此種子を通例胞子と申ましてこれが熟するとこれまで互に密着て居た六角の區劃は互に離れ開き自然に子囊が縱に裂け破れて中から胞子

第一圖

六角板及び子囊(効大)

第二圖　子嚢縦裂して胞子を飛散する

が飛び散ります六角板の中央に傘の柄のやうに短かい柄がくつついて居ますがこれで「ツクシンボ」の莖につくのです

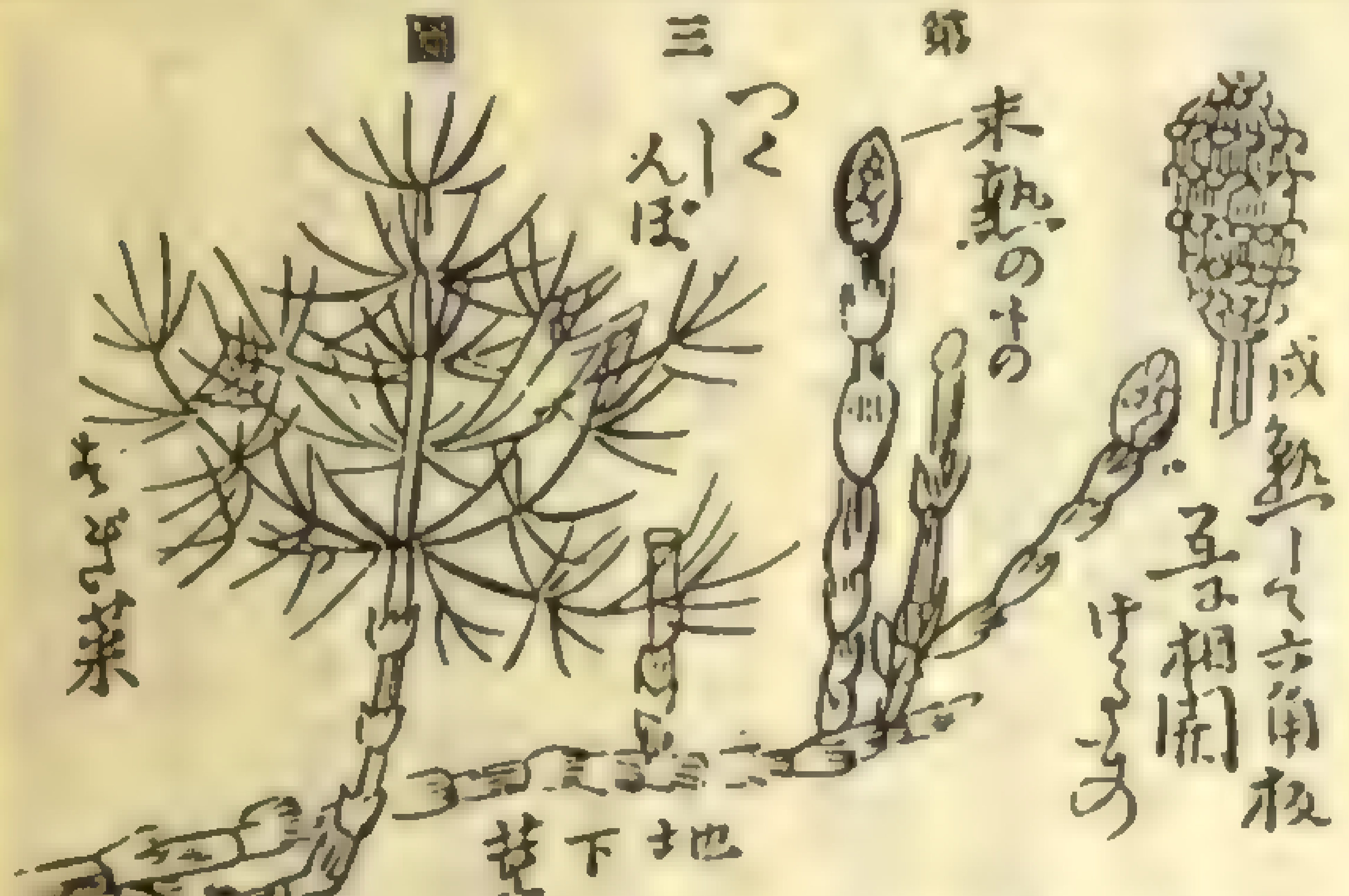
　兩人は感心せし風にて眼を圓くして母の話を聞き居たりしがやがて太郎は何か不審なる事のあるにや首を傾けながら

おつかさん「ツクシンボ」は何時花が咲くの。母「「ツクシンボ」には花は咲きませんよ。太郎「だつて種子があるじやありませんか花が咲いてそれから種子が出來るのでしやう。母「「ツクシンボ」は花が咲かずに種子が出來るのですだから之を隱花植物と申ますそして此隱花植物の種子を胞子と云います羊齒類（わらび類）もやはり隱花植物なんです

母は其傍に生し居たる「スギナ」をぬき取つてこれを示しつゝ尚も話を續けぬ

これは「スギナ」と云ふものですが「ツクシンボ」と兄弟で同じ根から生へる草ですよ。太郎「そう／＼先生もそうをつしやつたツけ‥‥どれ根を掘つてみやうとて木片を取りて土を掘り始めたが砂地なれど數日前よりの天氣續きにて乾き居ると他の草の根等の縦横にはびこり居るが爲めに中々の困難にて又根も割合に深ければ太郎は汗をかきながら十四五分もかゝつて漸く圖に示す如きものを掘り出したり太郎はうれしそうに

　ほんとだ／＼「スギナ」も「ツクシンボ」も同じ根から出でいらア



第三圖

花子「どれ兄さん見せて頂戴な‥‥奇妙な根だことね

母は何も説き聞かすやう「其根は眞の根ではありませんこれは莖なんですが地の中にあるから地下莖と申ます又一寸見た處が根のやうですから根莖とも云います根はずつと元の方にある細い毛のやうなものです云はゞ「ツクシンボ」や「スギナ」は地下莖から出る枝の樣なものでそして「スギナ」は葉「ツクシンボ」は花のやうなものです「ツクシンボ」は胞子が熟して飛び散つてしまふと間もなく枯れてしまいますしかし「スギナ」は漸々生い茂ります「ツクシンボ」は實の出來る莖ですから實莖と云ひ「スギナ」は裸莖と申ます

母の話はこれにて終り間もなく皆々歸宅せりかくの如く太郎花子は面白く樂しく此日曜を暮せしのみならず又極めて有益に送りたりき

序ながら六ヶ敷過ぎるとて母が太郎花子へは語らざりし等其次に書き連ねん

土筆の胞子を顯微鏡にて見れば綠色の球粒にして（葉綠素を含み居るが故に綠色を帶ぶるなり）細長き絲紐の如きものゝ附着し居るを見るべし此絲紐は彈絲と云

第四圖

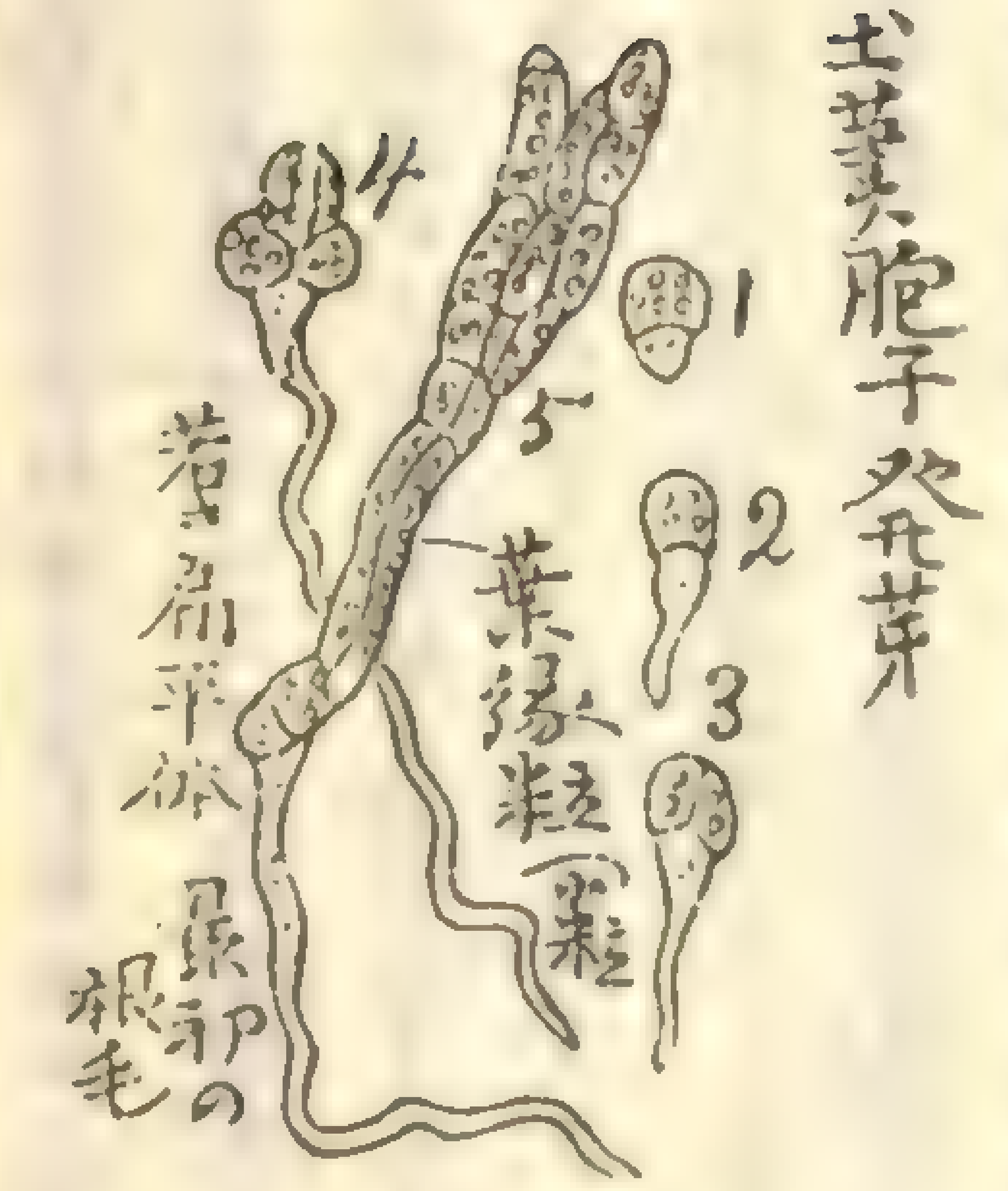
は濕り居る時は（上）の如く球の周圍に卷きつき居れど乾く時は（下）の如く開きて十字形をなすなり即ち二本の絲紐が十字形をなして胞子の一點に附着せるものなることを知るべし

此彈絲は胞子の外皮の變形せしものにて未だ熟せざる前は一枚の全き膜皮なかりしが后に至りて小刀にて梨の皮をむきたる如くに裂目を生しかくは奇なる絲紐となりしなり胞子熟して乾燥せば子嚢を破りて出で彈絲の彈力性によりて飛散するなり乾燥せる胞子を白紙の

上に載せ試みに呼息をふきかくれば忽ち收縮して其容積を減じ同時に變色するを見るべし之れ乾きて開き居たる彈絲が呼息中の水分の爲めに濕りて卷縮するによる暫くせば再び乾燥して元の狀態に返るべし

胞子地に落ち充分の濕氣あれば間もなく發芽し始む發芽して直に根を出し莖、葉を生するやと云ふに然らずして先づ扁平躰なるものを生す扁平躰とは其名の示す

第五圖

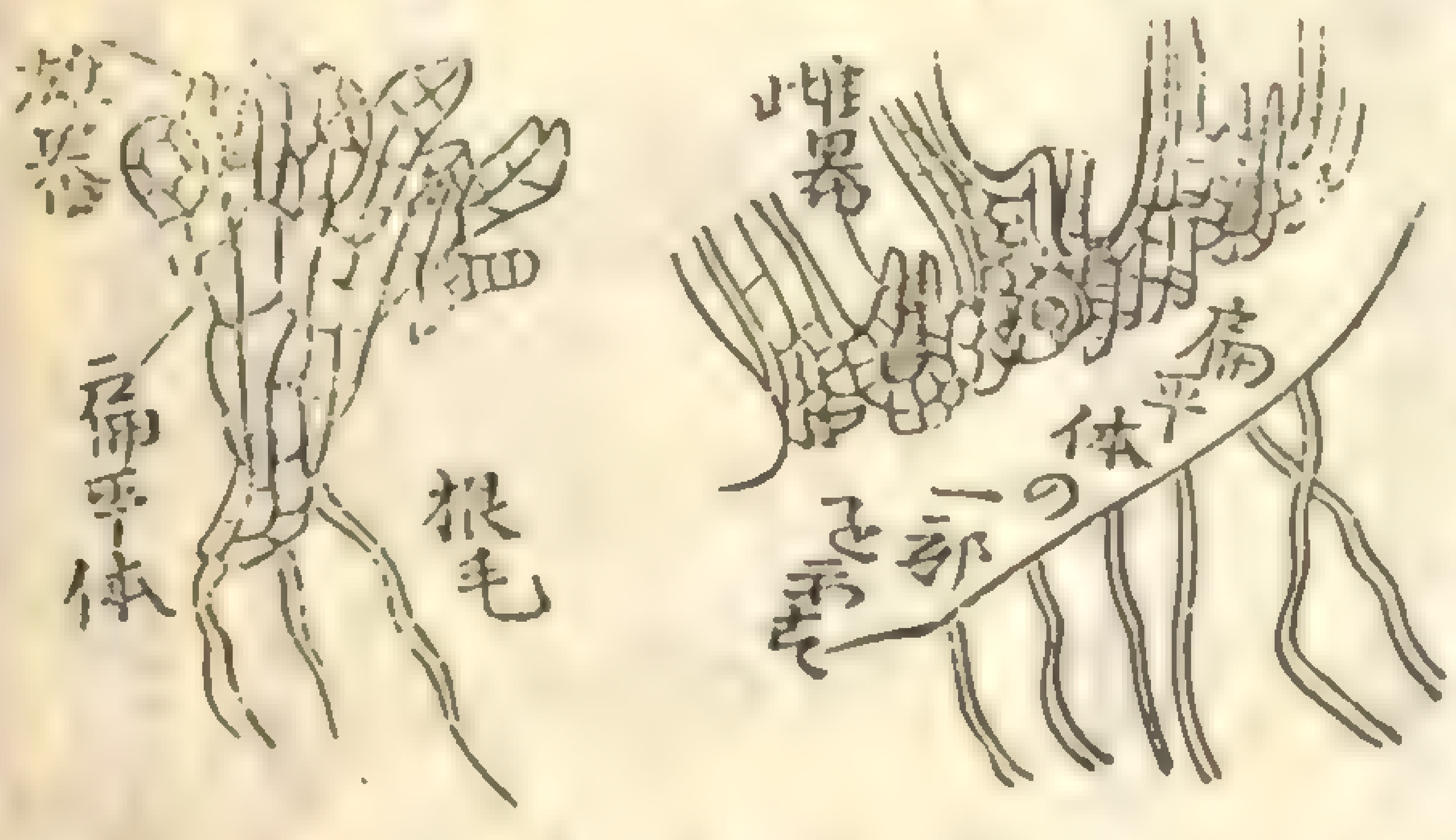


土筆胞子發芽の圖（凡ソ二百倍擴大）圖中數字ハ其順序ヲ示ス

如く扁平なるものにて其大サは一二分乃至三四分に過ぎず葉綠粒を含有するが爲めに綠色を呈す其裏面には多くの細微なる根毛を生すこれにて地中より養分を吸收するなり（其生殖の法よく羊齒に似たり讀者は本誌第七十四號羊齒の話を參照せらるべし）

成熟したる扁平躰を取て之を顯微鏡下に檢せば其表面に雌器又は雄器なるものを見るべし（羊齒に於ては裏面にあり）兩者は羊齒の如く同一の扁平躰にあらずして別々に生ずるなりこれは顯花植物の雌蕊及ひ雄蕊に相當するものにて雌器中には一個の卵球なるものを藏し雄器中には多くの雄精を有す雄器熟すれば雄精を放つ雄精は纖毛を以て運動し雌器中に入りて內部の卵球に合す卵球は雄精を受け（之を

第六圖



受精すと云ふ）て后卵子となる卵子は扁平體中にありて發芽し生長して根莖等を出して完全なる植物となると羊齒の塲合と同一なり

土筆則ち「スギナ」は學名を Equisetum arvense と云ひ木賊 Equisetum hyemale, var, japonicum と同しく木賊類と稱する高等隱花植物に屬す木賊類は羊齒類、石松類と共に羊齒門と云へる大區分の中に入る木賊類は太古の時代に於ては夥しく繁生し巨大の木幹を有したり現に化石となりて出るによりて知らる「カラマイト」と呼べるものは其の一種なりされど今は著しく退化して其數の少きのみならず其形も甚だ小くなれり其種類は世界中に僅かに一屬二十余種を存するに過ぎず其中我邦には五種を産す「トクサ」、「スギナ」、「イヌトクサ」は普通なるものなり現存せる最大の木賊類は南米に産する Equisetum giganteum と稱する一種にして長サ三十尺に及ぶされど莖の直徑僅かに一寸に過ぎす故に他の樹木に懸倚して生存すと云ふ

史談

女天文學者マリヤ、ミッチエル

K．M．生

マリヤ、ミッチエルは千八百十八年八月一日、米國の東に當りて大西洋中に在るナンタ、クットと呼べる島に生る。父は始め學校教師の職に在りしが、後銀行の金庫掛となれり。彼れは若き時より天文學を好み、餘暇には道樂勉强として熱心に之を修めたり。母は氣強き性質にして、明瞭なる頭腦を有したりと云ふ。父は晴夜には戶外に出でゝ天象を窺ふを常とせしが、其子女等は父の命により、望遠鏡の傍に立ち、父が觀測の爲めに時計の秒數を數ふると屡〻ありき。之が爲め彼等は知らず〳〵の間に天文學の智識を得、これぞ世界

に於る最も大切なる學問なりと考ふるに至れり。若し此頃に當りて此衆に到るもの、庭園に遊べる小供等に向て、誰が世界に於て最もゑらい人なりやと問はゞ、直にハーセル（英國の名高き天文學者）なりと答へしなるべし。

マリヤはかくの如き家庭に生れ、幼より既に望遠鏡六分儀（天躰の角度を計る器械）の用法を知り、兄弟中最も熱心なる天文家なりき。千八百三十一年に日蝕ありて、此島は其中心に當りしが、恰も彼女が十二歳の時にて、父が熱心望遠鏡をのぞきて觀測せる間、其傍に立ちて時計の秒數を數へたりと云ふ。

十六歳の時サイラスと云へる人が私立學校に雇はれて其助教となる、後には自ら私立學校を開きたり。廿歳になりける時、此島の公立圖書館の監督となれり。此職務は勉學には此上もなき便利を與へしかば、彼女は晝は讀書に耽り、夜は其好める天象の觀測に餘念なかりき。されど又家事を助くるを怠らず、朝は夙くより起き出で、自ら室内の掃除朝飯の用意をなしたりとぞ。

マリヤ、ミッチエルの名が天文學者として始めて世界に知らるゝに至りしは、彗星の發見にあり。千八百四十七年十月一日の夜なりき、滿空一點の雲なきの良夜なりければ、彼女は何時もの如く二階の一室に閉ぢ籠りて、其處に据付けある望遠鏡を窺ひ居たりしが、忽ち天の一方に於て、怪しき彗星と覺しき物躰の見ゆるあり。マリヤは直に階を下りて父にかくと告げたり。父は急ぎ上り來りて、望遠鏡を窺ひ、果して彗星なりとて、喜ぶこと限りなし。マリヤは精細なる觀測によりて、彗星なることを確證せし上ならでは、人に告げ給ふなと乞ひたりしも、父は喜びの餘り、かゝる事耳にも止めず、直にケンブリッヂなるボンド教授に其發見の次第を書き送れり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此彗星は其後二日即ち十月三日羅馬の天文家ファーザー、ド、ヴイコによりて觀測せられ、七日英國ケント洲のアール、ドースによりて、十一日ハンブルグのマダム、ルツクルによりて觀測せられたり、而してマリヤ、ミッチエルは其最初の發見者なりしなり。之によりてデンマルク王より金牌を拜領せり。

此後數月即ち千八百四十八年に於て米國學藝技術協會の名譽會員に、全會一致を以て推撰せられたり。之れ女子にして此會員に擧けられたるの始めにして、又此后とても恐らくはあらざりしならん。

後米國理學奬勵會の正員に擧げらる。

千八百四十九年より提督デビスの依賴により、航海暦の計算に從事し、金星の表を受持ちたり。此事業は他の仕事の餘暇に爲し、此後十九年間續けたりと云ふ。同年又米國海岸測量に從事せるバツヘ博士の依賴にて、メーン州インヂペンデント山の天文隊に加はりて、其觀測を囑托せられたり。

千八百三十七年の始め頃に米國の南方に旅行し、同年の秋歐洲に渡航し、翌年にかけて漫遊し當時著名の學者敎育家等に面會し大に歡迎せられたり。

千八百六十一年母の所により、其家族と共にマサチユセツト洲のラインと呼べる地に遷りぬ。

其後は天體の觀測、航海暦の計算に餘念なかりしが、千八百六十五年ヴァツサー女子大學より聘せられて、天文學敎授及び天文臺主監となり、爾後專心女子高等敎育の爲めに盡し、之が爲め航海暦の事業を辭したり。

彼女が學生を敎授するや、極めて親切にして熱心なりければ、高尚なる學理平易に、乾燥なる事實も面白く學ばれたり。彼の女は天文觀測が女子の仕事として適當にして又有益なる所以を述べて、精細なる觀察力を養ひ、忍耐の美德を奬勵し、又女子に必要なる諸色の鑑別力を鋭敏ならしむと云へり。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

千八百五十三年星の色に就き研究する所あり、星に種々の色を呈するは、其物質の種類及び地球よりの距離に原因し、又同し星にても年により其色を異にするとあるは、其實質の變化せしにあらずして、位置の變異に歸すべしと云へり。

千八百七十三年再び歐洲に航し、露西亞に遊べり。其紀行を讀めば、露米兩國文明の進歩敎育の發達を比較論及せし所ありて、其觀察の卓絶なるを知るべしと云ふ。

千八百五十九年其學術上の功績による、サン、マリノ共和國より青銅牌を受領し、同年米國哲學會の會員に擧けらる。

千八百六十九年八月、學生數名を率ひて、アイヲワ洲バーリングトンと云へる地に皆既日蝕を見んとて赴けり。此觀測に就き通俗的論文を「アワース、アット、ホーム」(家庭雜誌)と云へる雜誌に載せ、其學術的報告はコッフィン敎授の報告と共に出版せられたり。後千八百七十八年の日蝕はデンナーと云へる地に赴きて觀測せり。

晩年に至りヴァッサー大學天文學の講座を置く爲に其資金募集に盡力したり。資金は其の死後間もなく五萬弗に達し、マリヤ、ミッチエル寄附資金と稱し、之を右講座の基本金となしたり。

ミッチエル孃は米國婦人進歩協會の理學部の常置員にして、又數年間同會の會頭たりし事なり。其他彼女が關係し盡力せる會甚多く、一々列擧するの要もなければ此處には畧しぬ。彼女は又ラットガース女子大學、コロンビヤ大學、ハノヴァー大學等より學位を贈與へられたり。

千八百八十八年老衰の故を以て、ヴァウサー大學敎授の職を辭したり。同大學の評議員は彼女が積年の功勞を謝して名譽敎授となし、天文臺の傍に閑靜なる邸宅

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を老養の爲めに與へたり。されど彼女はラインに在る血族のもの共と共にあらん事を欲し、厚意を辭してかの地に赴き、樂しく餘年を送りたりしが、翌千八百八十九年（明治廿二年）六月廿八日を以て靜かに永き眠に入りぬ。時齡七十有一。

誰か云ふ女子は高等教育を受くるの腦髓を有せざると、大學に學ばず完全なる教育を受けざる一女子が、刻苦勉勵獨學以て大學教授となり、女子には不適當なると稱せらるゝ高等數學の知識を要する天文學を修めて世界に名を知らるゝに至りし事實は、確に其然らざるを示すにあらずや。幸に女子高等教育に關する謬見は漸く衰へて、今や我邦にも女子大學設立の計畫あるに至る、余は双手を擧げて之を贊成するものなり。此時に當り誰か我邦のマリヤ、ミッチエルを以て任ずるものぞ。

伊勢平藏平貞丈の女訓歌

花のかほ柳のこしのたほやかに
　心のこはき君そあやなき
べによそふ口はほそくて災の
　ひろくいてくる門さちめてよ
あやにしきぬふてふはさのつたなくは
　糸竹の音も何にかはせん
すみかまの山かつならて枝をたき
　れたくふすふるはさそいやしき
よしの山またき盛の花の色も
　香もおくふかき人からもかな

文藝

まことの友

秋葉女史

たゞさへ物おもはする春の夜に、ましてたそがれより小雨の降りいでければ一層さびしさまさりて文机によりても書よむ事さへものうく故里のみ慕はれてなん。」

三年のむかし此の東へ登りてより日毎にとひくる友はあまたあれど古き友なる翠子の君ほどなつかしきは又とあるまじすぎし年浪に袖をわかちてよりいく春秋を重ぬれど絶えず水莖かはしわひ今は手ばこにみち／＼ぬ。思ひいづるもなつかしき幼き時より朝な朝な手に手引きつれ學びの園にゆき教へをうくるにも遊びの庭に集ふにももろともになしかの君は妾をはらからのごとくにいつくしみ給ふにぞ妾もかの君の又なくまたはしくおもはれいたつきなどにて打伏し給ふ事あれば妾はさびしさやるかたなく神佛に疾くなほらせ給ふ樣にいのりぬ、又妾の打志づめる節にはさま／＼になぐさめたまふ其まごゝろこめたる言の葉にいつしか身もうき立ちぬかく親しみあふ程もなく妾は學びの道を修めんためとてはる／＼と東の都へ登らんと心ざしければかの君につげ參らせけるに、いとめでたき事なりとてよろこび給ひて妾も後にはかならずなどのたまひしかどかの君のたらちねのゆるし給はぬぞうらめしかりける。

いで立つ日も近づけばさすが心のこりのせられてせきとめかぬるは涙にて、共につれ立ちて小高き岡にのぼりてつきぬ名殘りををしみつ、いよ／＼其日となりぬればいでたつちからもうせ果てぬるをさばかり心よわきことにて學びの道に進まん事などおもひもよらじとかの君のはげまし給ふに我れとわが心にむちうちて長き年月すみなれし故里をあとに見て行く／＼も遠き東路をたどりける。かくて後髮引かれつゝ旅路もいとやすらに此地につきぬこれもかの君の我身の上のやすかれといのり給ふが故ならんとて又一層うれしく覺えてかなたの空を伏し拜みける其後は絶えず文をかはしけるがいつもやさしき筆の跡學びの道をはげめ正しき道をふみゆけと心からなるいさめ草はらからとてかくはかりやさしき君のあるべきぞ。長き月日の其の中にあるは

Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

學びの業にもうみ果てゝおこたりがちになる事もあれどかの御文の中の言の葉をおもひおこしては心をはげましてつとめなんとおもひ返すはそもいく度なるか。あゝ世にうれしきは誠の友今宵かの君はいかなる夢路をたどるらんと心はいつしか故里の空に走りけるされと思ひを更にめぐらせばいふもかひなき事どもなりかくはかりなつかしくば今よりは螢の光りまどの白雪おこたることなくつとめはげみ一日も早く業をとげて錦きて故郷へ歸りなばその時こそはかの君もいかに喜び給ふらん今おもひせまりて心よわく業なかばにてかへりなば何とて喜び給ふべきあゝ我れながら淺はかなりと漸く心に悟りては一時もかくあだには過されずとてそぼつる涕おしぬくひて書をひもとけば一言毎に妾の身をさすやうにおもはれける。いつしか雨もやみにけん風さへなきて音もなくかけひをつとふ雨水の流るゝおとのみ身にぞしむ

首夏

茂川千種子

櫻かりしゝ袖のかをりにひきかへて、卯の花ころも着てしより、あかすとしみし春の餘波もとゝめさりけり、夏來とつくる一聲もかなと、み空あふかるゝもをかしきに、片山里やいかにあるらんと、そゝろに都を出て、旅枕の夢にもこふる、伯母の庵りをとひしに、いとゑましげにむかへいれぬ、われも嬉しさに心落ゐて、知らす〱ひと日ふた日とふるまゝに、朝にはとくおきいでゝ、春葉にかをる山の端を打めくり、又夕にはいとはし近きすのこのもとに、今を盛りと咲かゝれる卯の花を月よ雪よと、愛はやししか心ともなく、都の空をあふけはさすかに、戀しう思ひなれる折しも、月と共に雲間をもるゝ一聲を聞ぬ、あはれ我此里にまひ來しかひにそあれと、さなからゆかしき友とちに逢

ふ心地して、すべり出てつゝと見れば軒端に殘れるは、ふけ行月の影のみにてなむ

時鳥汝か一聲を家つとに
　われも都の空にいそかむ

談叢

狐のレイナード（六）

勝間禪夢

羊が翌日の朝悄々法廷へ這入つて來て、狐より依頼されたといふ怪しげな革袋を恭しく獸王の前に捧げた時は、獸王もレイナードの爲に寶物を以てまんまと欺れたことを發見し、且つ怒り且つ哀しみ、己が疎忽の處置を非常に悔んで居た、そして手から革袋を受取つて、封を切り、中を改めて見ると、書狀樣のものは一通も無くて、這入つて居たのは、無慘や血に染まりたる兎の死首唯だ一級

これを見ると同時に、惡黨、畜生など呼び罵る聲が傍聽席に詰め掛けた獸の口からも鳥の嘴からも異口同音に起つた、そこで獸王は追手を走らしてレイナードの逃げ行く方を追跡させしめた。

レイナードはとう〳〵追手の者に捕へられ、再び獸王の前に引据えられましたが、右に言ひ抜け左に言ひ開きて、獸王始め並居る動物の面々を己が辨說に巻き込めて仕舞つたから、狼のイスグリムは最早勘忍を据え兼ねて、己が手套を抜くよと見るまに、レイナードの顏を目掛けて投げ付けた。

レイナードはその手套を拾ひ取つて、イスグリムをはたと睨め付け、

貴様は己にこれを投げたな、何をしやあがるんだい、喧嘩が仕て見たいのか、そいつあ面白い、貴様の相手に成つて立派に決闘を遣付よう

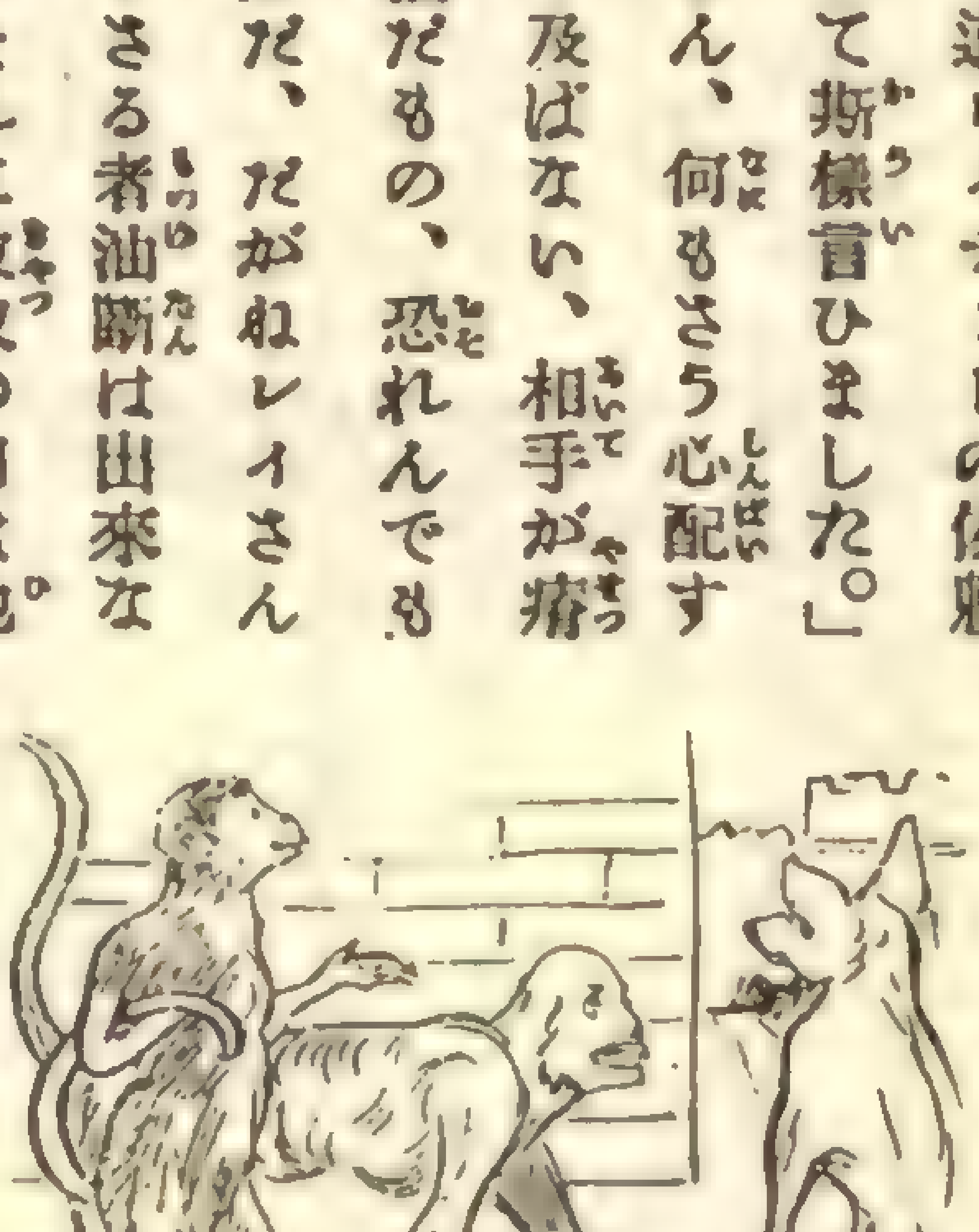
と言つた。

では明日の朝レイナードとイスグリムは決闘を仕ろ、立合人は猫のグリムバートと熊のブルインとの二人に極めやう、そして己も勝負の様子を見物しやう

と言つて獣王は此の決闘を許可した、そしてこの日は先づこれで閉廷することゝ成つた。

その夜レイナードは親友なる猿の家を訪れて、如何した策略にて明朝の決闘に勝利を得んものかと、猿にその教を乞つた、此の猿といふは人間には少許毛が足りないが、動物社會では一番姦智に長けて居る老爺だから、早速レイナードの依頼を承知して斯様言ひました。」

レイさん、何もさう心配するにや及ばない、相手が痩躰の狼だもの、恐れんでも大丈夫だ、だがねレイさん彼奴もさる者油断は出來ないよ、それに彼奴の口は他獣の三倍も大きいから、彼方ぢや屹度あいつが噛み付に違いないさ、その時の用心には斯様したら善いだらう。



レイナードはさも難有さうに猿を拜んで、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

どうすりや善うがすね、何でも貴下の御精圖に從て遣て見ますから、何卒教へてください。

と言つた。

それぢやあ斯様お仕なさい、先づ御前さんの毛を悉皆剃て仕舞つて、猿の野郎に捕まへ所の無い様にするのだか、何と善い工夫だらう。

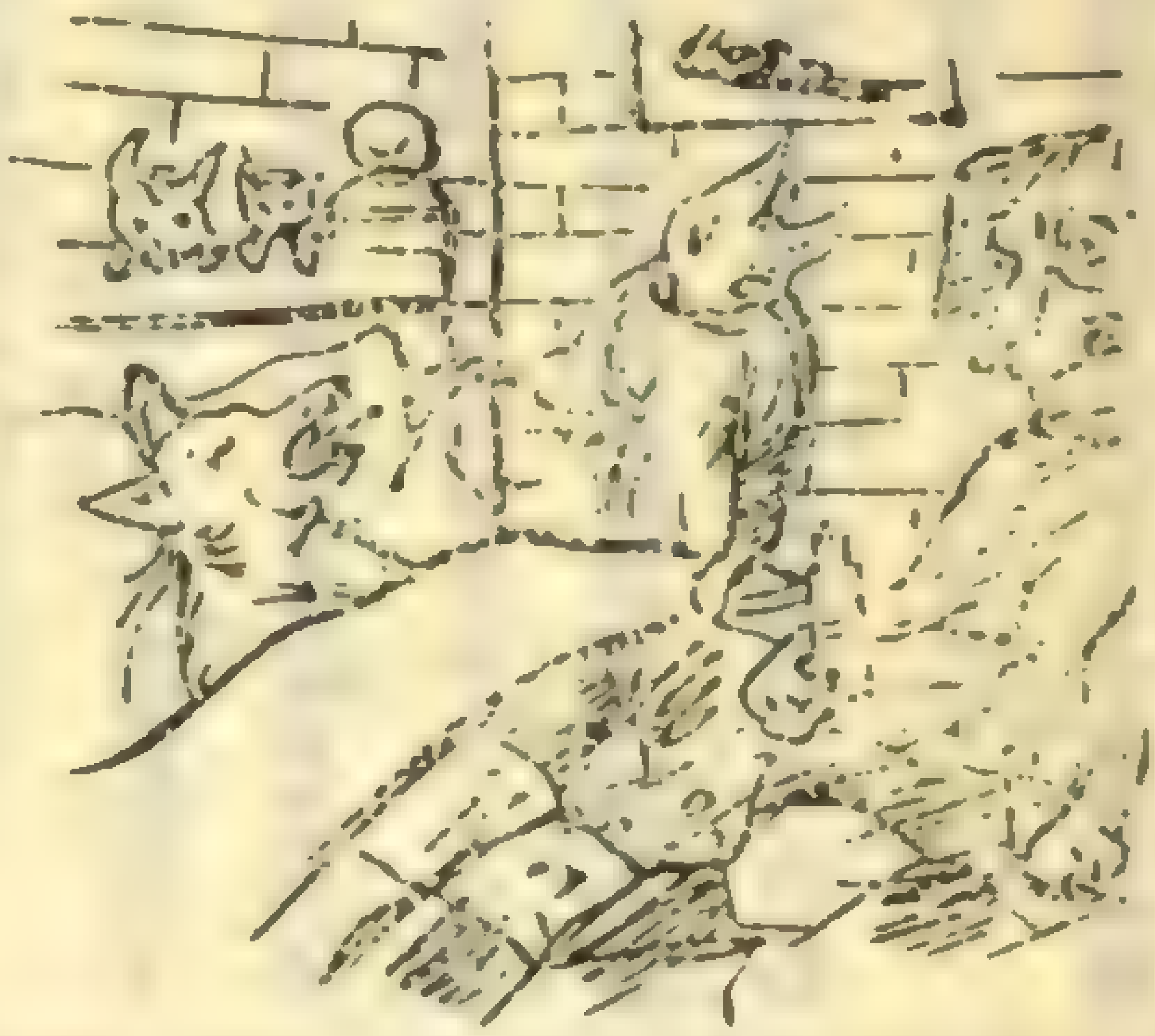
と言ふ猿の言葉に彼は愈々喜んで、「そいつあ面白うどすね、ぢやあ早速剃つて戴きましやう。

と頼んだ、そこで猿は髮剃を持て來て、狐の顏から尻尾の先まで一本の毛も殘さず剃り落して仕舞つた。

レイさん奇麗に剃れたよ、これで最早善いがね、家へ歸つてから、お前さん、一人で躰躯へ油を御塗り付けなさいよ、さうするとイスグリムがいくらお前さんを捕まへやうとしても引掴かうとしても大丈夫だ、お前さんの躰が油でつる／＼ぬる／＼するから彼奴の手がとんでも無い方に滑つちまはあ、アハハハハハ奇妙だらう、それから愈ゝ決闘と成つたら、お前さんは之の長い尻尾を態と地面へ引摺るやうにして、彼奴の顔の前でバタ／＼翻いて無暗矢鱈に砂芥を浴びせかけるのだが、よしか、解りましたかい、此や新案目潰法と言つて私が始て工夫したものさ、まあ私の言ふ通り遣付て見なせい、乾度旨く勝てやす

ぞ。

と言つて猿は卑怯なる身仕度と計略を狐に敎へてやつたから、レイナードは非常に喜んでその厚誼を謝し、そして欣々然として立ち歸て行つた。



翌朝二頭の格闘者が柵の内に這入つて來た時は見物のものが押し合ひ迫し合ひ群り集つて、人の山では無いが鳥の岡やら獸の峯やらを築いた位である、そしてレイナードの異形の姿を見るや皆な一度にどつと笑き出した、軈て決闘の暗圖が雙方に與へられると、レイナードとイスグリムの二獸は互に近寄つて來て、殿と身を構へて稍暫くは睨み合て居たが、不意にイスグリムは裂くる許に大口開いてレイナードの咽笛目掛けて飛び付いた、あはやと見るまにレイナードは身を横に飜つて、これを避けた、再びイスグリムはレイナードの脊中に飛上つたが、両足滑つた爲め筋斗打つて倒んで仕舞つた、倘ほ再び起き上がつてレイナードの尻に嚙み付かうとして、一聲高く吠えて飛び上つた時、レイナードはこゝぞ天下の分目と一生懸命に尻尾を振り廻はして散々に砂芥を浴びせた、これに僻易してイスグリムがあはてゝ前足で目を塞つて居る隙を窺つて、彼は急にイスグリムの襟首に喰ひ付き、美事投げ倒して柵の週圍を引摺まわした。

此時獸王は急に中止の令をレイナードに下して、

　レイナードお　の勝利は充分に見えたから、最早イスグリムを許して遣れ。

と言つた、其故彼はイスグリムを放し、意氣揚々と威張りて柵の外に出ました、決闘の勝利者であるレイナ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ードを今しも迎へた鳥や獸は、彼が勝利を得たのは全く正直であつたからだと思ひ、皆な揃つてヤンヤ〳〵とレイナードを襃めそやし、そしてイスグリムを獸の仲間で無いやうに嘲つた、そこでレイナードは多のものに警衛されつゝ獸王の宮殿に導かれて行つた。

これに引代へ狼のイスグリムは半死半生の目に遇はされ、柵の內に倒れて居たが、群集の四方に散つて行つた後、彼の妻や小兒や又は朋友のブルインやヒンズ等が、皆な目を泣張らしながら彼の側に集つて、靜に彼を扶け起こし、擔架に乘せて彼が住家に連れて行つた。

イスグリムは都合廿六個所の重傷を受けて、氣息も絶え〳〵に弱り果てゝ居るから、早速動物界に名醫の譽ある犬の家に使者を走らして、その療治を賴んだ、犬の醫者は間も無くイスグリムを訪問して、彼に先づ入浴させ充分にその躰を溫め、そして傷口へは丁寧に膏藥を貼付けて、頭より足まで堅固と繃帶を卷きつけ、そつと寢床に臥さしめた、イスグリムは此の手篤き療治によりやつと自分に歸つて氣ヵ付くと、忽ち躰の節々か痛み出して、自分が不覺を取つたことを口惜がつて泣き始めた、彼は自分の側の看護者に向ひ、

私は傷の痛は我慢出來るが、私の心の苦しさは實に何うも堪らない、御醫者さんの御蔭で躰の痛は癒つても私の心は何時までも惱みます、昨日迄は動物界の勇士として獸王始め皆なの衆に立てられて居た私ですが、圖らざる今日の失敗にて、必ず私に愛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

智をつかし信用して呉れるものが無くなる許でなく、私等の威權はみんな似而忠臣のレイナード奴に暗々横領されて仕舞ふのだ、あの獣面虫心の狡猾狐に…あゝ私等の事もこれまでに成つた。

と言つた、これを聽いて朋友のブルインとヒンズは泣いた、犬の醫者も腕否な前足を叩いて嘆いた。

併しレイナードは總て過去の犯罪を宥された上に、決鬪に勝つた賞として司法卿に任ぜられ獣王の内閣に連り、重大なる權力を擅斷するやうになつた、そして數多の動物に尊敬され、大層長生をして富み榮えましたとさ、アヽ世の中はこんなものか。（大尾）

小說

なさけの杯（下）

松ヶ枝女史

旅人は立ち上がり無言で少し歩み出して、遙か彼方の山道を見渡すとは細い憐な一朶の烟が樹の間から立ち登つて居る、旅人は少童を振り向き「あの向ふに木立の上に煙りの見ゆる處がお前の家か」と尋ねた

「ハイ、母が今晝食の用意に火を燃き付て居るのです杯のないのに氣がついてきつと私の歸るのを待つて居ましやうよ、もうこれから道は安全ですからどこまでも右へ／＼とお出でなさい、谷へ御下りなすてつから後は大變樂に成ります、もし私共の方に御出でなさる思召なら、幸ひ御飯も澤山炊いてありますから何卒御遠慮なくお出で下さいな」

「可愛ゆい子ぢや、一寸、私に抱かれてご覧」と言ひつゝ旅人は自分の強き腕に少童をかゝへて、馬の鞍の上にのせ、自分は傍に立つて「お前は腕を私の頸にかけて御見よ、何卒今夜お前がお家に歸つて阿母さんと一所に御祈禱をする時忘れないで今日お前の小さな手と心で、お前の杯に滿たすことが出來た清い水を、私の杯にも注げるやうに祈つて下さい、私は今大切な役目で遠國に行くけれど、お前のことは何時も忘れまい、そうしてもし運よくて無事に歸國する日があつたらこの山道を通つてもう一度お前の持てる愛の杯から飲ましてもらいましやう」そこで旅人は少童を地面に下ろして家に歸へらせました、少童は快活に幸福な微笑を洩らして杯と手桶とを小さい腕に抱へながら急ぎ我が家の方に向ふて往つた。

旅人は馬にうち跨がり物思はしげに進んでゆく。

「あゝ實に賴しいえらい兒である、私の位置では世の富に飽き／＼して居る故か、一つの泉など何の造化の恩惠なぞとは思はないで居た、だがまああの子の心のしほらしさ、凡ての物がなくなつても猶其處に居つて道を踏み迷ひ旅に行惱む人の案內することが出來やうといふ心の內は、まあ何たる美くしいものではあるまいか、思へば自分などは實に恥かしい、幾多の人の爲めになすべき機會は眼前に下りながら、それさへ爲さずに過ごして仕舞つたことは幾度か知れない、造化は私にも杯を惠み置かれたものを、私は故意と用ひずに居たではないか」と熟々自分の事を反省した。

その後彼は再び少童に逢ふことが出來なかつた、恐ろしき戰爭が始つてかの山地一帶を荒らし盡くした三年の後、かの旅人が再びかの山地を通りまして、一刻も早くかの少童に逢ひたいと思ふて居ると折よく一人の樵夫に行合ひ、その人に少童の事を尋ねたら、悲しくも戰爭のあつたこと、野も山も谷も河も仆れた人馬に

充たされたこと、及び其の凄じき矢叫びの間を物ともせざる一人の愛らしき少童が飛鳥の如くに駛け廻り、手桶に泉の水を幾度となく汲み足しては負傷者の間を右往左往と奔走して幾多の乾ける唇を濕ほして居つたが、一日恰も夕陽西に沈みゆく頃ひ、一人の死にかゝつた兵士に例の如く水をやつて居つた時、不意に飛來た流矢の爲に、小さな心臟も小さな杯も眞二つに割つて仕舞つたこと、その夜兵士等は彼の小さな身體を抱き上げて、靜かに森の中に運び行き、涙と共に墓を掘つてやつた、そして佐官は自分の外套をその死骸に被せて懇に地中に葬つたことなど聞き知つた

樵夫は猶も語を繼いで語つた「その時に聞ひた吊詞と云ふは唯だ兵士等の啜泣きする音のみであつたと云ふことです、私共は實にあの親子を惜しみます、然しあの親子の親切で私共の心の惱もどれほど癒たか知れません、あなたもあの子の事は御存じのやうですが實によい子でした、あゝ今でも思ひ出すのは、あの戰爭の起る余程前の事でしたが、一人の男がその主人からだと言ふて、一個の箱を持つて來てあの子に與つたことがありました、その時あの子は私を呼んで見せて呉れましたが、實にその中には立派なものが澤山ありました、柔かな革の脚絆や「シャツ」や帽子やそれから母親への分として澤山の金貨だの何だの本統に樣々のものが入つてました、その時あの子は私に「アンブロス私は誰がこれを贈つて下すつたか知つて居るよ、そのお方は又此處に來るつて仰言つたから、必然御出でなさるだらう私を抱いて接吻して「さようなら」と仰つた時には涙ぐんで御出でしたつけ、あゝ早く此處へ來て下さるとよいが、その時はこの美しいものをみんな着て見たいものだ、私があの方に上げたのは唯水一杯きりで御坐いましたから彼の方が入らしたら澤山お禮申さなければ濟まないのですわ」など言ふて切りにその

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

遠國に居る人のことを話して居ましたが思へば何もかも昔の夢となつて仕舞ました」悲哀と失望に襲はれて旅人は暫し馬の鬣に頭を下げたまゝ哀しき心のやる瀬無き樣を人目も恥ず顯はして居た、樵夫は此時急にこの人が彼の遠國の友であつたと氣が付いたから遽かにその馬側に進み寄り、己が粗暴なる然し實直な手を旅人の腕に置いて「誠にあの一杯の冷水が或は造化の特別な御思召であつたのかも知れません、お見受け申せば高貴の方のやうに思ひますがどうぞ貴下もあの子のやうに人を憫んで下さい、」と言つた

旅人は腕を伸べ、樵夫と共に手を取り合つて熱情よりの握手を互に行つた、二人の位置と境遇には天地の懸隔あるに拘わらず、相互に浮ぶ聖なる追想の感情はこの瞬間浮世の境域の外に立つて身も心も相接して少の會釋も無いのである。

旅人はその後幾年も富み榮えて、彼の位置と富貴と權勢が捧ぐる種々の誘惑と戰ひながらも忠實に名譽ある余生を送つて居た。

後年彼の寶物を調べた時その中に一の彫刻した箱が遺入て居た、それは金で鈎の留めるやうに造られたるものにて、中には岩間より噴き出る小さな泉が畫いてあつて白い縁の方には使古した杯と手桶の畫があつた、そしてその蓋の上には「主の名に於て愛の務めの爲めに」といふ文字が美くしく書いてあつて、蓋の内側には綠色と金色で最もあざやかに「幼兒は彼等を導かん」と記銘してあつた。

富士山の歌

天の原富士の煙の春の色の
霞になびく曙の空。　大僧正慈圓

立登る雲も及ばぬふじの根に
煙たこめて霞む春かな。　衣笠内大臣

春は又夏にきえて時しらぬ
雪とも見えず富士の芝山。　大僧正道性

富士のねの雪には春も知られぬを
雲や空に霞み初むらん。　權大納言義詮

春霞立つも雪の色なれば
猶時知らぬ富士の芝山。　從三位雅家

富士のねの雪解の雪を吹のけて
霞にかふる春の初風。　慈鎭

東路にまづ來る春の日の影を
雪に待さる富士の芝山。　橘千蔭

群書解題

さまぐの家の集

欲東老人

先きには代々の勅撰集、其數すべて二十一、いはゆる二十一代集なるものについて、其概略を語りたりしが、今は、一個人の集、すなはち家の集なるもの、それについて些かいふところあらんとす、勅撰集、いづれもたふとき勅によりて、撰びなしたるものにしあれば、古今にもあれ、後撰にもあれ、または拾遺集にもあれ、全篇いづれも粋の粋、悉とく金玉の文字にして、其調とゝなひ、其語整ひ、いづれよからざるものなし、されども又、おのづから忌諱を憚かり、また謗々を謹しみて、心にもなきこと、列らねたるの跡なきにあらず、これ何れの時代、何づれの國にも、常にあり、屡〻ありて、免かるべからざることなり、さるをこの、家の集にありては然らず、忌諱これを憚からず、謗々さらに謹まず、思ふまゝ、詠ずるまゝ、それにまかせて集めたる、精撰といふにあらざれば、いづれ歌屑の一つ二つ、これあらざるにはあらざれども、眞にして然かも亦實、如何にも歌人其人の、心を其まゝに寫し出だせる、これにまれるものはあらじ。されば、古今に出でたる貫之は、飾り立てたる、磨き立てたる、然かも又、粧ほひ立てたる貫之にして、實に眞正の貫之ならず、其他躬恒も亦然り、式部も然り、納言も然り、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

猶といづれか然らざらん、これに反して、家の集に顯はれたる、貫之はこれ眞正の貫之にして、躬恒また、眞正の躬恒なり、其他式部も亦然り、納言も亦然り、猶といづれか然らざらん、故に古來、斯道に步みを運ふ人、勅撰集のいづれもより、反つて家の集に重きを置く、そも〳〵故あることゝもなり、諸子、一二の勅撰集、こを讀み了りなば、諳じ了せば、必ず二三、繼いて家の集を讀め、家の集、そをいづれか讀み了らで、いまだ歌を學びたりとはいふべからず、蓋し、眞正の歌、流行の言を以てこれをいへば、眞正の詩たるもの、そは彼れにあらずして、ことごとく是れにあればなり。

余は重ねて、斷言す、勅撰集は假聲なり、家の集は眞聲なりと。

然して其家の集、其一個人の集たるもの、これを擧げて一といはんに、其尤も古きもの、實に貫之家の集となす、勿論その以前に、業平家の集ともいふべき、伊勢物語のあるあれども、これ等こゝにいふが如く、正しき家の集にはあらず、續いて躬恒家の集、是則家の集など相つゞく、それに又、紫式部家の集、清少納言家の集、和泉式部家の集、これ等の三四、いはゆる閨秀の家集を併せてこれを王朝家の集の一塊とし、續いては後德大寺實定卿の林下集、源三位賴政の家の集、これ等は六波羅時代の家の集中、巨擘といはるゝものともなり、然して、鴨長明家の集は西行の山家集と相共に、鎌倉時代の家の集、戰塵にまみれざる、隱者の聲なり、兄たり難く弟たりがたく、いづれも斯道の斯寶なり、又、萬葉以來の歌人といはれ、衝天の名聲、嘖々百歲の後に鳴る、鎌倉の右大臣實朝朝臣の家の集、金塊集と題せるは、一段此群の中に秀づ、南北朝に於ける家の集、僅かに兼好のあり、頓阿のあり、足利の時代殆んど跡を絶ちてなかりしが、元和偃武、ついて德川の盛世、文學復興の運につれ、歌道又いよ〳〵榮

えて、歌人一時に飛出し、ともに金玉の聲を吐く、家集こゝに多く出で、古しへの家集、其名を凌ぐものさへあり、即ち、村田春海の琴後集、本居の鈴の屋集、加茂の眞淵の縣居集、或は千蔭のうけらの花、香川景樹の家の集など、萬人ともにたゝへて止まず、實に然かたゝゆべきものゝあるなり。

これたゞ一斑、わづかに其名ばかりを傳ふ、もしそれ其詳しきこと、及び歌の例などに到りては、又折を得てこれを言はんか。

近著紹介

女子教育談

日本橋通一丁目
嵩山堂發行

本書は女子大學設立につき朝野の名士東京帝國ホテルに相會し其席上演説を筆記せしものなり、日本女子大學校を紹介す(内海忠勝)高等女子教育の必用を論し併せて其反對說に答ふ(成瀨仁藏)女子教育と男子教育との關係(近衛篤麿)國民教育の復本位(大隈重信)日本女子大學校設立に就て(蜂須賀茂韶)女子教育談(江原素六)同(島田三郎)女子教育振起策(成瀨仁藏)にして諸氏が把持せる女子教育論の要領を知るに足るべし定價十五錢

家政

庖厨雜俎(其五)

恕說

(14)石決明の粕漬

石決明の季節なれば酢貝などにして膳部に上すは普通の調理法なりこれを粕漬にせば不時の季節に珍らしく食することを得るは勿論、その味も最良きものなり先づ石決明の殼及び腸を除きて奇麗に洗ひ器に一晝夜漬

け置き翌日取り出だして酒の粕に漬け五六十日も經て後、食用に供すべし

(15)香魚の麹漬

新鮮なる香魚の腹部を割り腸を能く洗ひ去り少し水を灑らして後、鹽を撒布し暫時日光に乾かして美濃紙に包みドロ〳〵になる位に麹を醬油にて溶き紙に包みたる香魚をその儘漬け込み密封して貯へ置くべし一年乃至一年半位は色も香も新鮮のものと異ならずして食することを得べく其味ひ亦上品なり

(16)牛乳レモナード

暑さに向へば清涼なる飲料を好むは誰れも同じことなるが牛乳レモナードは衛生上よりも好く且、洋食の後などには好飲料なればその方法を述ぶべし

沸湯一ポンドに棒砂糖四分の三ポンド檸檬水一ギル、一シェリー酒一ギルを投入しよく混和しこれに牛乳三ギル位を加へ後、濾過して飲料とせば上等の牛乳レモナードとして各人の口に適すべし

(17)菜類の鹽漬

時節柄菜漬期なれば左に菜漬の心得となるべきことを述べんに野菜類も性質によりて軟かなると硬きとあり軟かなる性質のものは漬けて食用に供するも老人小供などに害少しと雖、その硬きものは時に胃を害し腸を傷むることあれば柔かに漬けざるべからずその法は漬け込むときに一層ごとに炭酸曹達を少しづゝ撒布し鹽は常の如く平常の手加減にてよし然かせば漬けたる野菜類如何なる硬き性質のものも軟かになるとのことなり然し曹達は少許の方よろし余り多量に撒布せば味ひ佳ならずといへりかくして漬くれば老人子供にも嚙み易くなり隨つて消化し易きものとなるべし

麥稈眞田の製作

我邦の麥稈は其質より言ふも其色よりも言ふも、伊太

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

利、支那より遙かに優り世界に冠たりといふも敢て憚る處なし、されば倫敦、巴里、桑港等其他海外市場に評判著しく年々流行品なりとて美しき夏帽子が舶來せるは、實に彼より我邦の麥稈を取つてかゝる美術品と姿を變じて我邦に歸るなり、麥稈の產は實に我邦獨特と言ひて可なるべければ其製作も我邦に於てし（現に麥稈帽子の製作場あれど其製作は未だ彼國製造所に數籌を輸せり）出來上り彼に劣らずは十分外國の輸入を防ぎ得べし、さて此業には大仕掛の製作場を要するは勿論なれど、隨分家庭の職業として差支なし、追々新麥稈の出さかる時節となりたれば、眞田編を試みらるべし但し農家には特に必要の業なれど一般普通の家庭にても妨なく、現に東京市內にても此業に從事し居る男女多く見受けらる、此業は眞田として我邦帽子製造所に賣り込むか或は之を海外へ輸出するに甚だ望あるものなれば、家庭の事務に閑暇ある人は、試みて追々熟練の境に達しなば一家の職業とするに足るに到るべし、當時麥稈眞田紐工料は內職として一日分と見積り五角打一反（八錢）七角打同（十錢）玉眞打同（五十五錢）なりといふ

姿見鏡と金椽

姿見鏡の曇を去りて清淨ならしめんには海綿へ燒酎或は杜松子酒と水とを交へたるものを浸し、それにて徐々拭ひ、然る後乾きたる絹の片にて拭き清むべし、又姿見鏡其他の金椽の燦爛たる色を失はゞ、雜巾などにて、拭はずアルコールの中へ酒石を溶し置き、其上澄の中へ古くなりたる金椽を暫く差し入れ、手早く拭き取るべし

婦人職業案内

造花の内職(花簪)

こは蠣殻町一丁目三番地錦華堂といふにて新に募集する内職者の職業にて、紗布及び絹布を以て種々樣々の花弁を摸し、或は簪の花、或は植物の標本等を製作するものなり、此の職業は頗る優美にて且つ奇麗なれば、多少熟練と緻密を要するに拘はらず、美術的興味の爲め他職業よりも容易に覺え得らるゝなり、賃銭は稽古中のものにて一日十二三銭位、それより熟練するに從つて二十銭三十銭五十銭位迄には至るといふ、又同店の内職は地方に居るものといへども容易に營み得らるゝ法を設けあれば至極便利にて、尚詳細に知らんと欲せば、郵券二銭を同店に送り、その方法書を一部乞ひ受け玉ふべし。

英文一斑

(三)

前號の書翰には花子孃より櫻女史に宛てたる二通の招待狀を掲げたり、玆には、此書翰に對する返答の一例を掲げん。

Miss Sakura accepts with pleasure Miss Hana's polite in vitation for wednesday evening.

「拜啓陳者來る水曜日の晩に參堂する樣御丁寧なる御招待に與り難有承知仕候右御返辭まで草々

櫻より

花子樣

又た出席する能はざれば、左の如く、簡單に記すべし、

Miss Sakura regrets that a prior engagement win present her accepting Miss Hana's polite in

vitation for wednesday evening.

「拜啓陳者來る水曜日の晩に參堂する樣御招待被下候得共先約有之候ため殘念ながら參館致しかね候間不惡思召被下度候草々頓首

櫻より

花子樣

古昔は、子供より其の兩親に宛てたる書翰には。

"Honoured Sir," "Honoured Madam" 又は "Honoured Parent" なる三ヶの言語を用ひたりしが今は "My dear Father" 又は "My dear Mother" なる言語を用ゆるを例とす、"Respected Sir" なる言語も今は尙は不用に歸し去れり、然し乍ら時と場合に應じて、"Dear Sir" 若くは "Dear Madam" を用ゆ

未だ一面識なき人々には "Sir" 若くは "Madam" を用ゆるを例とす、而して親友、子、女、兄弟姉妹、叔父母に對しては Dearest を用ゆるを常とす、Esq. なる文字は昔時は、社會に於て地位ある人々に對して用ゐしが今は知己なる人々に對して用ゆるなり、然れ共、之を使用する權利を實際有する者は國會議員、其他社會に於て地位ある者に限る、現今にては寧ろ濫用せらる、又た普通以上の人物に對して書翰を送るには、差出人の名稱の下に etc. etc. etc. なる言語を用ゆ、時としては Your's を用ゆる事あれ共是は大に誤りて決して Your's と記すべからず必らず Hers, its,ours, yours, theirs との如く、の記號を用ゆ可からず、畧字を論ずるの序に P. P. C. なる文字につきて少しく論じたし、此の文字は名刺の左側に發見する語なり、人が將に其處を去らんとして其の朋友を訪ふに用ゆ、P. P. C. は佛語にして Pour Prendre Congé の畧字なり、即ち告別の辭に相當す、又 P. D. A. は Pour dire adieu の略字にして、之を使用する事もあり、

紹介狀作例

Dear sir :—　　(Address——)

(Date　——)

Allow me to introduce to you Mr. Sato, a friend of mine who goes to study in a school at Tokyo. I shall feel much obliged by your giving Mr. Sato any assistance in your power.

Thanking you in anticipation of your kind services.

I remain,

dear sir,

yours faithfully,

(——).

「拜啓陳者今度東京の某學校にて修學のため上京せんとする小生の親友佐藤氏を紹介仕候、及ぶだけ御周旋被下候はば感謝の至りに御座候御親切なる盡力の次第豫め御禮申上げ候草々頓首

何　某　よ　り

某　　君

物品を送る短簡文作例

Dear sir :—　　(Address——)

(Date　——).

You will received with this note a copy of the Nihon gwaishi, which I beg you will accept as a small token of my kind regards, and.

Believe me always,

Yours affectisnately.

(——).

拜啓陳者日本外史一部進呈仕候間何卒御受納被下候はゞ幸甚

何　某　よ　り

某　　君

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

同返書

My dear:— (Address——)

(Date ——)

Accept my best thanks for your kind present. The book is valuable in itself, but I shall doubly esteem it as a gift from you.

Believe me,

Yours much obliged,

(——)

「拜啓陳者結構なる送物難有御禮申上候本書は既に價値あるものに御座候へ共貴下よりの賜として殊に貴重可仕候草々不一

何某より

某君

借用文々例

My dear :—

Can you favour me with the loan of the "Nihon gwaishi" I will return it to-morrow.

Yours sincerely

(——)

(Address——)

(date——).

「拜啓陳者日本外史一寸拜借願度候明日は返却可仕候頓首

何某より

某君

英作文否な書翰文に於ては殊に句點法に注意せざる可からず然らざれば重大なる誤謬を來す事あり、多くの英學者は實に此點につき注意せざるは甚だ惜むべき事にして西洋人の中に行はるゝ話柄にして句點に關し甚だ面白き者あり、今參考の爲め之を記す、

"Caesar entered; on his head his helmet; on his

feet armed sandals; upon his brow there was a cloud; in his right hand his faithful sword; in his eye an angry glare; saying nothing, he sat down.

「シーザーは入り來れり、頭には甲兜を戴き、足には甲履を穿ち、前額蹙み、右手に其の忠實なる刀劍を有し、眼中怒を含み、一言だに發せずして着坐せり」、

然るに僅か二三の句點の差異に由り、其の意味の一變するを見ん、

寄書百珍

摸範的婦人

静岡 栗島鐵助子投

題して摸範的婦人と云ふ亦難からずや豈志想淺薄にして經驗に乏しき乳臭兒の能くする所ならんや然れども數年來意を用ひて觀察したる事項によりて謂はんに抑も現時の幼稚なる社會を改進して善良なる社會を組織せんが爲には如何なる要素を要するやと云ふに先づ其根本たり地盤たる家庭の改良を先にせざるべからず而して此重任は實に婦人にあり其性質、品行、志操、等は先哲の言又加ふべきなし唯古人の謂はざる所にして此重任を負へる婦人に要する者あり家庭に關する一般の智識是なり。試に吾人日常接する所の婦人に就て見よ。所謂順良慈愛なる者は育兒教育の方法に暗く愛に溺れ情に致ひ人に母たるの本務を遂ぐる能はず、貞操なる者も理財の術を知らずお鳥目的經濟を以て遂に一家の衰頽を致し、少して才氣あるものは舅姑に事へ家族に對するの道を輕じ一門の紛擾を起すが如き其他衛生、看護、親族の交際等徒に古來の舊慣に甘んじ其改良に志ざゝる者一に家庭に關する一般の智識に乏しきが

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

故にあらずや苟も此智識を備へ其性は熱心にして撓まず品行は子女婢僕の摸範たるべく志は圓滿幸福なる完全無缺の家庭を組織し以て社會の改善に資せんと志さん者こそ其効を收め得べきものにして一家の爲め國家の爲めに吾人の尤も渇望する摸範的婦人なり

西町　微笑生

我未來の愛らしき佳人は、柔和にして物優しく情厚く分辨深く擧動閑雅優美なるべし今日の女學生の如く生意氣、物知り顔、氣取り風、男々しきは眞平御免なり

大坂市北區末廣町　山口熊雄

摸範的の婦人に就て說明を下せば各自其思ふ所に由り各自其好む所に由て摸範の說を殊にす然りと雖も其主意とする所は大同なりとす而して我理想の婦人は即ち我の好む所の理想を有する婦人なり即

性質に就ては

質朴にして温良に伶悧なるを要してオテンバに非ず人に好まるゝ自然の愛情あるものにして言語動作靜閑なるもの

品行に就ては

高尚にして犯すべからざる威嚴を保ち柔順にして快活ならざるべからず而して活潑にして寡言默行なるべく人と交際するに及で上等社界より下等社界に至る人々に可否を別たれざる行状を有し（善を知て成ざるは罪）ありとの聖言を行ひ得るもの

志想に就ては

其眞人の志想の點を能く注目し得て其志想を己の志想となすべきを考定し得るもの

以上の資格を有するものは實に摸範的婦人なりと信ず

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東山竹外生

健全なる國家は健全なる國民を意味し健全なる國民は健全なる母を意味す何をか健全なる母と謂ふや天然に於ける肌の黑白外貌の美醜は問ふを要せず身體健にして姿容閑雅精神高尙柔和溫順にして端正なる宗敎心を有し慈善の心に富み父母に事へて孝養を盡し夫に對して貞操を守り以て一家の和樂を保ち世帶の道に通じて夫を助けて一家の經濟を整理し夫をして內顧の患なからしめ普通の學識を有して自ら一家の模範となりて家庭に於ける兒女の敎育に一身を委ね天眞なる兒女の特性を發揮し天賦の氣質を鼓舞養成し是をして健全なる丈夫たらしめ是をして淑德なる婦人たらしむる者は是れ即ち吾人の所謂健全なる母なり

健全なる母は健全なる國民を生み健全なる國民は健全なる國家を造るなり

健全なる母は一國の柱石棟梁を造り一家の幸福和樂を生み個人の爲めには實に眞愛なる終生の同行者たり眞實なる補助者たり人世唯一の眞知己眞良友たるなり

嗚呼健全なる母よ汝は是れ即ち吾人が常に腦裏に畫ける理想の婦人なり

不知婦生

貞女兩夫に見へずなどの貞操の德に至りては我邦女人に於ての國粹なれば御身は百も二百も承知ならむ、又女に取りては之より重ずべきものはなけれど併し吾は多く貞操を語るを欲せず、吾身は寧ろ男を蕩然す位の智謀才識を持ちし女が大好きにて御身も此の質の女ならんとを切に希ふ、驚き玉ふに及ばず誰も男は此向の女を好くものなり、隨分外面だけは威張りて見ゆれど內心は凡そ斯樣なものなり、併し此の故を以て凡そ男は浮氣者じやと想はゞ間違なり、少し極端の例なれど女餘程の眞面目な男が人の女房に横戀慕せしを見ても知

ちるならずや袈裟御前とて身を殺して操を立て通せし程の貞節の女なればわざと盛遠の戀慕を誘ひしにはあらざるも、其の才氣愛嬌界姿包むにつゝまらず、胸中の美玉自から光を放ちて六尺の偉男子を蕩然したるなり、されば天眞爛熳胸中常に炎々たる火を燃したる遠藤武者程の男にあざれば彼の女を戀慕する能はざるべく、又た如何に美貌麗姿楊貴西施を欺くとも智謀愛嬌身を殺して貞操を立つるの袈裟御前程の女にあらざれば彼男を蕩然す如きと能はざるべし

才氣と德操並行を得るものなれば佛身に向て望む處此に外ならざるも人間の圓滿希ふ能はずとならば先づ才氣こそ望しけれ、智なきの操は世に之れより憐むべきものはなし

山の手生

小生の理想とする處は教育あると怜悧なる婦人にて候世間にて當今女子の弊態を評して學問あるため生意氣なりとするは大なる間違にて候男子も同様に候が殊更婦人は學問があればある程教育があればあるほど優しく且つ謙遜にて今日の生意氣婦人は生學問なるが爲にて候教育があれば怜悧にて志操も鞏固品行も方正に候此實證は西洋にても東洋にても其例澤山有之候無分別とか頑迷の罪は多くは其性の愚なるがためにて愚なるは無教育無學問の罪にて候夫故小生は絶對的に婦人の教育あるを切望致候也

◉社告　『模範的婦人』の問題尚盡きざるを以て第百二號迄の問題とす

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社交一斑

流行の栞

流行子

夏向の洋傘

洋傘の流行は一昨年より昨年、昨年より今年と漸々上等の物に傾き來れり

男持にては佛國黒絹製の海老茶色絹張のものにて、骨は細卷か又は隊し彈きのもの最もよく流行す價格は一本にて五圓より十五圓位迄なりとす、之に次ては甲州製の黒綾絹の並物專ら中等以下の男子に流行す、

女持の方は黒絹製の紋付丸形傘にて色は大抵黒を好みその十中八九皆これなり、直段は普通にて五圓内外、上等にて十五圓、之に次ぎて流行するは西陣製紋付丸形傘なり、この直段三圓より五圓位まで、その他甲州製にて海老茶か又は黒手の綾絹張の傘にて、一本の直段一圓五十錢乃至三圓位のもの普通社會の婦人に最好もく流行す、

又郡川引傘は木綿にて表を白茶にし裏を青又は淺黄色にて張りたるもの昨年來流行し始めたるが今年に至りて、益使用者の殖え行く傾あり、直段は一本一圓より二圓の間。

握柄は多く木製の物なれど、上等の傘にはセロロイド（俗にゴムと呼ふもの）、象牙等多く流行す、握柄の裝飾には派手なるを餘計に見受けらるゝなり。

以上代價は南傳馬町の仙女香にて聞き合せたるものなり。

由多加織

攝津國由多加織物會社の製造に係り經は紡績絲緯は稻藁絲にて織り成したるものにして表面に本邦古代の美術模樣其他種々の紋形を顯はしあれば頗る美術的の器物なり日本の座敷にも西洋室にも適用され價格も比較的低廉なれば評判よろし價は疊一疊則ち巾三尺長六尺にて一圓十錢の割

雜録

那須野育兒曉星園（上）

酒井生

茫々漠々たる那須原の一部に藹々たる博愛のたなびける一村落あり、これ即ち那須野育兒曉星園なりとす、世間哀れむべきもの多かる中に、孤兒ほど哀れむべきものあらん、今や一世を擧げて射利主義利己

Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

主義にのみ奔走して、父なく母なく家なき孤兒が饑餓に泣くを顧るに遑なきが如し、ア、社會の殘忍之に過ぎんや

曉星園々主本郷定次郎君は曉星園の設立に至るまで羸弱の身と無資力とを以て明治廿一年、君が基督教信者と成てより千種萬様の博愛事業に從事し、辛苦艱難具に一朝一夕の談にあらず、鞠躬盡力全く其左肺を失ふも尙ほ止まず、內君の助力亦夫君に劣らず、今日尙ほ幾層の困難の地にあり、然も

那須慈恩學院

博愛の主義、育兒の事業毅然として動かず、予は同君及び夫人の傳は他日詳細に述ぶるの期あるべし、茲には明治廿四年十月濃尾大震あり、君行きて救助の策を講し、歸りて麻布龍土町に孤兒院を移せし以後の事情を悉にし、汎く世の博愛慈善の君子淑女に訴へ、君が事業の實狀を報し、其事業の永遠に榮えんを祈る

麻布龍土孤兒院。孤兒院を此處へ移してよりは朝祈禱の後午前に兒童を教育し、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

午後は實業靴磨き或は日用品の注文に就かしめたるが如き、整頓上の點に於ては幾分か進歩の模樣なきに非ざりしも、其生活の點に至つては少の進歩ありしを見ざりき、貧困は先天的に君の身邊に纒へる厄病神ならん哉、或時は又一粒の米なし、君亦病床にあり、かくて夫人は君に代りて荷物を負ひ、麻布鳥居坂なる東洋英和女學校に至り、幸に五圓五十錢の金を得、大に感謝して數日を過せり、又或時の如き糧食なく只南瓜五個あるのみ、飯に代て食せしむるに忍びず、家族一同相會して祈禱會を開けり、七時に至りて猶食を得ず、殆んど困究するの時、豫て薪炭の仲買をなしたりし人が、代金四十五錢を持來れり、又某家の注文に應じ、炭三俵を兒童に持たせ遣せしに、其代金は六十錢なりしに一圓を與へられ、他に馬鈴薯、茄子等を與へられて其夜も亦全く感謝の中に食せり。

明治廿五年二月、現今の伯林駐在全權公使青木周藏子爵より君に面談の用ある故に來れとの命あり、至れば子爵は種々君の目的を聞き大に讃し、後君に向ふて

下野那須野に廣き原野を所有し、今盛に開墾中なり、されど種々の事情あれば、是非彼地美はしき基督敎村となしたし君行て我爲めに盡力せよ

と語らる丶當時君は龍土町の兵營に近く、酒舖出で、醜業婦現はれ風俗大に亂れ、到底孤兒の敎育に不適當たるを見留めし時なれば、君亦數種の願ひをなし、月に八圓宛の補助を仰ぐとの約を得、君快く之れを諾せり。

君は先づ其原塲を見んと獨身旅裝を整へて那須野に向ふ、黑磯停車塲を距て三里漸く青木開墾地に至る、此間一の家を見ず、目を礙るものは只茫々たる草木のみ、塵芥千丈、雜沓極る東京に比せば其間雲泥の差あらずんば非ず、神と交り祈禱の生涯をなすには最好地あり、自然に接し、眞理を語るの好適地あり、况して孤兒そ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

養ふをや、君欣然として歸り、早速子爵と開墾地借用約定證を取換し、先づ始めは最強き者十二名を伴ひ後に家族を呼ぶべきとを子爵につげ、本院に歸り、本院は又夫人及淺井磐至氏に托し、君は兒童中、最強きもの十二名(年長十四才、年少十二才)を伴ひ、廿五年四月を以て、那須野原青木開墾地に至る後種々の都合ある東京の本院はスウイフト氏に托し、同六月十五日を以て全員悉く那須野原に引拂へり、予は今ま青木開墾

那須野曉星園

地に於ける孤兒院の事を記するに先ち、予をして前に記せる淺井磐至なるものにつき、一言せしめよ、本郷君の旅行中、壯士首魁らしきもの、一人の壯士を伴ひ來り、君の在院なるやを問へり、夫人は君の不在を告げ、土曜日に歸へるべきを語れり、其首魁らしき者、已は前後七回投獄せられし淺井磐至といふ者にして、是非主人に面會したければ其旨申されよ、是非再來なるべしとて行けり、次の日曜日、君か將に出でんとせ

る所に右淺井氏又來訪せり、君は七回迄の入獄と聞き、大に其人を憐み、是非悔改せしめんと、極て親切に氏に對せり、氏は過去の生涯の罪惡の生涯なりしとより、嘗て最後の入獄中、過失の爲めに入獄せる一基督信者の熱心に聖書を研究するを見、詳しく基督教々理を聞き、且つ羅馬書を在獄中、廿七回復讀せると、第一議會に馬糞を投ぜるは氏の所爲にして、其頃は如斯事を以て實に大誇慢をなせると及其他諸種の罪の事、又在獄中は充分に決心せるを、而も娑婆の風に吹かれて再び折らんとして、先日は友人の許に至り借金して酒飲をなさんとするを、折よく孤兒院の前を通りて、再び心付かさると、等を語り、其後必ず悔改めんと、涙を流していへり、君は其人となりを見、氏を用ゐて午前に孤兒の教育に當らせんといへり、氏驚けり、曰く「我如き大罪人を用ゐんといひ玉ふか」、君靜かに曰く、「然り、君は如何に大罪、大惡をなすとても、此家は神の家にして神守り玉へば、決して惡を働くと能ふまじ、若ふ君にして來らば、我受入れ、共に朝に絶えず、神の聖前に祈らん、

淺井氏大に喜び、之れより毎朝五時に必ず來り、鈴を鳴したりき。

青木開墾地孤兒院。明治廿五年四月四日夕本郷君十二兒を伴ひて該開墾地事務所に着す、されども家未だ調ひ居らざりしを以て、無據、牛馬小屋の二階を借り、破れ壁は炭俵にて繕ひ、僅かに疊八枚を借り、皆喜悅を以て感謝せり、始め東京を出でたる時、預め此事あらんを期したりしを以て、飯を籠二個に入れ來りしが、何分多勢なりしか爲めに、忽ち盡き、夜に至り糧殆んど盡く、然れども荷物の運搬取込、且つ道不案内なるを以て到底米を買ひ行き得べきに非ず、故に其夜君は殘飯を味噌汁に入れ、君の不注意を謝しつゝ、十二童に飲ませ、君は心中堪えざれば食せずといへり、而も彼

等聞かず、其理由を答ふ、君眞實を語る、彼等曰く、我儕は父さんが來ません時は、一日も食ないと度々ありました、父さん、今日は働てつかれましたから、父さんまつ御たべなさい

君は潸然、兒「能くいふた、其心あるか」といへるのみ、君共に汁を吸ふ、時に一農火を持ち來り、寒く雪降るに火鉢なきか如き故に作り來れりと、而して君の眼邊涙あるを皆見し、其故を問ふ君亦眞を語る、農歸りて

曉星園教場

米四升を持ち來り、使へよといふ、君即ち深く、謝し、一同飽食せり。

青木開墾地に於ける本郷君等の生涯は、同じく毎朝禮拜をなし、後各自鍬を肩にして讃美を歌ひつゝ農場に出で、夜は夜學をなし、後感謝會を開きて就蓐せり、食物は野菜なかりし故に、僅かに野蒜等を取り其他のものを、味噌汁となして食し、飯は稗飯にして、皆滿足を以て、不平なく前を望で進めり、又君は開墾地在人中に大に基督教を傳へ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

爲に洗禮の決心をなせるもの七名ありき、嗚呼而もこれ返々孤兒院の悲哀の種なりしこそ悲しけれ。

始め子爵と約せる時は、孤兒院は基督教なるを以て、日曜日を守るを許されたりき、只無據時のみは、無賃にて幾分かを手傳せしむるを諾せり、子爵後歐洲に行き、支配人一個の意見を以て、聖日を守るを非難し、且つ受洗せる雇人を解雇せり、君は此村を基督教化するの責を有す、然るに信者は解雇せらる、君何時か其目的を遂げん、遂に子爵の令弟に乞ふて解雇せられし者を孤兒院に働かしむ、かくて支配人は君を以て敵視し、村民をして馬車を貸さしめず、之より支配人の迫害益々加はる、而して此時既に人員七十餘名に増加し、收入は以前只だ八圓のみ、加ふるに幼兒の「ブドウ」に刺され腫物を患むもの全員中廿七名、君は眞に何事をも爲す能はず、只祈禱するのみ

此八ヶ月こそ、今日迄の我一生涯中、眞に信仰と祈りの生涯なりき

此時赤坂病院より醫士來りて、大に働かる此醫が曾て

體同操場

一松樹の根に於て所る六才前後の小兒を見たり、主よどうぞ、父さんに馬を一匹與へて下さい、私等が腫物の爲めに困り居ますから溫泉に行ける樣にして下さい、又夜具がたりませんから與て下さいとは彼が祈の旨趣なりき、醫大に感じ、東京に歸り大に周旋し四十八圓を送る、本鄕君直ちに廿三圓にて馬を買ひ、餘を以て廿七名の孤兒を鹽原に送り、日ならずして全快の幸福を見たり、所れる孤兒は香吉といふ濃尾震災孤兒なりき。

八ヶ月間豆の如き手を以て働ける結果、一町步の開墾地を得たるを以て今此地を去るは、君に於ては斷腸の感あらん、而も迫害は益々加はり、到底孤兒を養ふべき地に非ず故に詮なし解雇狀を伯林なる靑木子爵に送り、同十二月十一日現今の三島開墾地（曉星園のある所）に移れり。

獨乙大學生の決鬪（下）

金子春夢 譯

「コルプス」、「フェルビンヅング」、「ブルシェンシャフツ」此三俱樂部に於て「コルプス」は「フェルビンヅング」と戰はず、「ブルシェンシャフツ」と戰ふことあれども「ブルシェンシャフツ」は遊戲をのみ是事とし卑怯の聲多ければ他の俱樂部より輕蔑を受け居れり。

獨乙大學生の決鬪は最多く趣味あれど必竟愚なる事柄なるを免かれず、予（此原文を記せし英の留學生）は土曜日の朝屢學窓より武器を載せたる荷車が町外を過ぎ行くを目擊したり、予は不思議の感に打たれ眼下を過ぎ行く獨乙學生等の列に加り宿舘へ入り込みぬ、入れば大なる室内も種々の色せし帽子を被りし七八十の學生に充滿し、學生等は華麗に裝ひ、或は麥酒を飮み、儀式として彼等は各々自身の名をば式長の帳簿に書き止められぬ。

室の一側の戸には『球突戯』と記されたり、其室の中央には三ヤード許離れて二脚の椅子あり、床には所々に古き血潮に染みし色の褪めたる古敷物を布けり、予が其場に入りし時は、一決闘濟みし後と見え血潮にふりかけし鋸屑が赤くにじみ、二人の學生は椅子に倚り盂（療法に用ゆる）の上に

頭部をくゞめ、長き白色の膝掛をせし若き醫者、兩袖をまくりあげ、決闘によりて受けたる刀痕を縫ひつゝあり、學生等が魔睡劑を用ゐざるは強し豪しといふ意を示さん爲なるべし。

手術進行の間に次の決闘の準備成りぬ、二人の學生は彼等の制服をば紐にて括り上げぬ、此決闘は介添人ありて決闘時間は二十五分間、而して其決闘の原因を聞けば別に爭論より起りしにもあらず、互に決闘の熟練を示さんが爲なりき、休止は互に五打擊の後に介添人より發せられ少時の休憩を命せらる、介添人なき場合には廿五分間内一の休止の命なく血を流し鬪力を失ひたる時に止む。

介添人は決闘者の左側に立ち並び、決闘者は重き面つきたる帽子を被り、彼等の頭部には彩色せる布を當て、籠鍔の劍を運びぬ、決闘者の服裝は制服のまゝと否とあれど予が實見したる時は、決闘者の一人先づ其上衣

と短衣と襯衣を脱ぎ去り、其下に着たる襯衣一枚となる、こは「バークフンド」と稱し決鬪者とも稱ずべきものにて粗き布帛にて製しあり出血のため汚れる覺悟なるべし、右腕には肩より手首まで絹製の手甲を嵌め（日本の擊劍道具の手甲の如き）腋下に革製の褥樣のものを置き、手には重き職用手袋をはめ、腕全躰悉く保護せられたれば、腿ほど大きくなれり、斯くして尙咽喉の部にも絹製の頸卷を用ゐ兩眼には鐵製の重き凸眼鏡をかけ、革製の股引をも穿きたり、但し決鬪に熟練せしものは、其必要なければ股引を穿かず、總じて右の如く保護の道具を用ゆるは、劍端の他の部に觸るゝを防ぐ爲と知るべし

決鬪者は大き劍を執れり、長さ四十インチ、刄頭はつぶしあれど刄は鋭く鍔は徑十インチある丸形の鐵葉製なり

準備整ひぬ、双方の勇士劍を執つて立てり、今や決鬪開かれんとす、兩勇士は少時其右腕をば开所に列び立てる同列の肩に休めぬ、こは準備の間腕のだるくなりしを休めんためなりき、やがて式長入り來り、短簡なる式場演說を試みぬ。

二人は其間三呎隔り位地を取り（尙ほ帽子を被れり）床上に畫きし十字の上にあり、打擊を避くるため此十字の區域より一歩も他に出づるを許

さず、判者は決闘者の近側に立ち、決闘の時、休止の語、或は流血せし打撃の數を認む。

介添人は叫びぬ、「判者よ、十五分間の沈默を命せよ、フチン、ブライセンとブース(決闘者の名)と介添人の聲に」と。

判者は其の如く命を下しぬ、兩勇士の帽子は脱ぎ去られたり、「戰へ」「刃を合せ」と介添人は叫びぬ。

双方の劍は十字と結ばれぬ、此時一人は劍を引きて頭上に翳し、頭と面とを防禦し且つ打撃の形をなす「やれ」と介添人の號令かゝるや、丁々發矢と切り結び兩方とも第一撃を試みんとあせりぬ、然れども手首の戰にして腕は頭上に置かざるべからず、これ腕の全力を以て大打撃の危險を避くるがためなり。

戰闘數分時間にして一人より流血淋漓を見る此時判者の號令ありて一人の醫師負傷者の側へ走り其傷を撿せり。

十五分間にして此決闘局を結び、次で醫療始りぬ、疲勞せる二人の學生は椅子に倚りかゝり、此決闘にて曲りし劍は伸されて藥劑をもて淸められぬ、外科用針と色糸とは側なる卓子の上にあり、醫師の一人は少さき書冊に傷の數及縫ふたる針の數を認めたり醫師の書冊に記せし要件は決闘上に於ける公文と見做して可な

り。

獨逸大學生は決闘によりて誤て敵手を殺すことあり、かゝる場合には其大學校を去ることを忠告され退校するも他の大學校に入學する便宜を有すれど、再び敵手を殺す如きことあらば凡ての大學校より放逐せられ安ずる處を失ふに至る。打擲のために死する事あり、又

劍毒のために死する事あり、千八百八十二年「ヂナ」の大學校にては同日に二十三組の決闘を見るに至りしが其内三人は死し殘餘は病院の治療を受けたり、這は以前用ゐし不清淨の劍を使用したるがためなりといふ。巡査は決闘の風聞を耳にし之を抑制せんと其場に駈けつくるも其詮なく、巡査來たれば平和の裡、學生一同或は睡りつゝ或は飲みつゝあるを認るのみ。

獨逸に於ては到底決闘の禁止困難なり、決闘は「カイゾル」(皇帝)を始めとし青年の士氣を鼓舞する好手段と認められたればなり。

前回に「ヅンメル、ヨンゲ」を「沈默せる若者」と譯せしは「馬鹿な若者」の誤、譯者獨逸語に嫻ざる罪に座す、讀者幸に恕せられよ

世界各國の巡査(口繪の解)

(一)は亞非利加の極南ケープトーンといふ處に住む土人の巡査、(二)は西班牙の巡査、(三)は羅馬法王の護衛巡査、(四)は我が日本の巡査、(五)は冬服を着たるルーマニヤの巡査、(六)は墺太利の都ヴヰンナの巡査

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(七)は墺太利の憲兵、(八)は獨逸の巡査、(九)は佛蘭西の巡査、(十)は露西亞の巡査、(十一)は南洋の一島フイヂーアイランドの巡査にて、右方は通常の巡査、左方は警部、(十二)はフイヂーアイランドの附近シツク島の巡査、(十三)はマレー半島の巡査、(十四)はモンテチグロの巡査、(十五)は英領印度の一國なるマドラスの巡査、(十六)は歐洲の北部瑞典國の巡査、(十七)は丁抹の巡査、(十八)は白耳義國の巡査、(十九)は英國倫敦の巡査、(二十)は米國紐育の巡査。

『世界の巡査』と題する詳細の記事は次號に掲ぐ、讀者幸に本號の口繪と對照して見玉ふべし。

東京府下女學校一斑(二)

四谷愛住女學校

四谷愛住町愛住女學校は山の手に於ては指を屈すべき女學校なり、校舍の宏大、生徒の多數を以て有名なるにはあらざれど、校主小具貞子氏が夙に女子敎育の事に熱中し、毫も官民の力を假らす徹々たる一婦人の身を以て多年の間敎育の事業に從事し此校より幾多温良貞淑の婦人を出せり、同校敎育の主義は其生徒をして女敎師たらしむにあらず、温雅順良にして一家の事務を執掌し得らるゝだけの學問及智識を涵養するを以て其目的となす、されば苟も婦人の態度をして粗暴に導くが如き敎育を避け體操の如きも小笠原流禮式體操に據り今日の學校體操を採用せず。

學科を分ちて尋常科、高等科(東京府制規の科目)撰科とす。

撰科は同校敎育の精神の在る處にして、讀書、習字、作文、裁縫、編物、禮式、家計簿記、彈琴(山田流)活花(池の坊遠州二流)に分ち授業料、尋常科(三十錢以上七十五錢)高等科(五十錢以上壹圓)撰科(壹圓但し琴、花を倂學すれば三十錢増加及一科撰習三十錢)

現今生徒の數合計百二十名敎員三名助手二名專科敎員五名

同校が曾つて他に率先して千島なる報效義會(郡司大尉一行)各生徒聚つて義勇會金物を寄贈したる一事を見るも同校の性質如何を知るべし。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

《五月八日發賣》

國木田哲夫
松岡國男
田山花袋
太田玉茗
嵯峨の山人
宮崎湖處子
合著

和田英作筆
寫眞銅版畫六葉挿入

抒情詩

定價貳拾五錢　郵税四錢

抒情詩は國木田哲夫の『獨歩吟』松岡國男の『野邊のゆきゝ』田山花袋の『わが影』太田玉茗の『花ふゝき』嵯峨の山人の『いつまで草』宮崎湖處子の『水の音づれ』より成る。

抒情詩は今日猶未だ米に値せず、而して吾人の之を作るに止むを得ざるは、吾人の生涯米の外一日の詩なき能はざるを以てなり。

抒情詩は眞情の聲なり、之れを梓して江湖に示すは、眞情を以て眞情を得、之を以て聊か寂寞の情を慰せんと欲すればなり。嘗みに此の集を繙て見よ、戀に悶ゆるものあり、戀に狂へるものあり、戀に哭けるものあり、煩惱の妖雲を拂つて眞如の清月を觀破せんと猛進するあり、父母昆弟の情を歌ふものあり、敬虔の生涯を歌へるものあり、都會の世塵に背きて山野の老人小見の心を歌ふものあり。

此等の詩、苟も以て世の同情を得るに足るものあらば、江湖の博雅願はくは一讀を賜へ。

發兌元　東京市京橋區日吉町四番地　民友社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

面白草紙第四拾號 五月十日發行

懸賞文章發句大募集 規則は本紙に委細掲載せり見本は一冊四錢五厘にて遞送す郵券不苦

發行所 東京神田五軒町一番地……雷笑社

御賣所 同區裏神保町上田屋○東京堂

全世界無比

登録商標

白粉兼用 玉の肌石鹸

薫香馥郁 質純品良 優美高尚 玲瓏如玉

定價壹個金三十錢 三個金八十五錢

郵便券代用ニテモ直ニ御送付可申上候

すべてのいろを白くしきめをこまかにする頗る高等の化粧しやぼん

諸石鹸製造本舖 東京市芝區西久保巴町十番地 稲生二平

賣捌所ハ全國到る處にあり

速記法 自宅獨習生募集 月謝二十錢 二ヶ月卒業

規則入用者は郵券二錢を投すべし

東京下谷區徒士町二丁目三十番地 速記學專修所

兵營小訓

奥陸軍中將題字 東條陸軍中佐序文

定價十五錢 郵税四錢

誕生日

德富猪一郎編 久保田米僊畫

第十版發刊廣告

定價上製二十錢 並製十五錢 郵税四錢

第一第二合本語全

クロース上製金文字入 定價二十錢 郵税二錢

發行所 東京 民友社

（明治二十五年九月十四日遞信省認可）

東京市京橋區西紺屋町二十六七番地株式會社秀英舍印行

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA